

名張市における
令和7年度全国学力・学習状況調査
結果・分析と今後の取組

令和7年9月
名張市教育委員会

調査開始後17回目（19年目）を迎え、本年4月17日を中心に、市内の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に行われた「全国学力・学習状況調査（以下「全国学調」）」の結果について、本市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等調査の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施するものです。なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。これらのことを十分考慮し、今後の名張市の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

○実施年月日 令和7年4月17日（木） 他

※小学校：児童質問調査4月18日～30日のうち、あらかじめ決定した実施日

中学校：生徒質問調査、理科4月14日～17日のうち、あらかじめ指定された1日

○市内調査児童数（全6年生14小学校）：561名（当日実施数）

○市内調査生徒数（全3年生5中学校）：552名（当日実施数）

1 各調査項目の平均正答率の状況

○名張市欄の平均正答率については、下記の基準で色分けしています。

名張市 ≥ 全国・三重県

全国 > 名張市 ≥ 三重県
三重県 > 名張市 ≥ 全国

全国・三重県 > 名張市

		令和5年度			令和6年度		令和7年度			前年度 令和4年度
小 学 校	調査項目	国語	算数		国語	算数	国語	算数	理科	理科
	名張市	69	63		68	63	65	55	54	63
	全国比(全国を100)	102.7%	100.8%		100.4%	99.4%	97.3%	94.8%	94.6%	99.5%
	前回との比較	3.6%	1.3%		-2.2%	-1.4%	-3.1%	-4.6%	-4.9%	
	三重県	67	62		67	62	66	57	56	63
	全国	67.2	62.5		67.7	63.4	66.8	58.0	57.1	63.3
中 学 校	調査項目	国語	数学	英語	国語	数学	国語	数学	理科	理科
	名張市	70	52	44	55	48	53	46	IRTスコア 495	46
	全国比(全国を100)	100.3%	102.0%	96.5%	94.7%	91.4%	97.6%	95.2%	98.4%	93.3%
	前回との比較	1.7%	6.6%	-7.1%	-5.6%	-10.5%	2.9%	3.8%	5.1%	
	三重県	69	51	45	57	53	53	47	498	48
	全国	69.8	51.0	45.6	58.1	52.5	54.3	48.3	503.0	49.3

※IRTに基づく調査では、各問題の難易度等を用いて、IRTの数式により受検者の能力値を推定する。能力値は、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。IRTスコアは、推定された能力値を分かりやすく示すものである。令和7年度調査の平均スコアを500としたIRTスコアで表示
※前回との比較については、100分の1以下まで算出（見かけの値と差があります。）
※理科の前回調査は令和4年度

<小学校>

本年度、三教科全て全国平均、三重県平均を下回りました。また、前年度全国比との比較でも、三教科全てマイナスとなりました。

<中学校>

本年度、国語は三重県平均と同程度でしたが全国平均は下回りました。数学・理科は全国平均、三重県平均を下回りました。前年度全国比との比較では、三教科全てプラスとなりました。

＜無解答率の状況＞（経年変化）

本年度も、小学校、中学校ともすべての教科の無解答率が全国平均より低く、よい傾向が見られ、諦めずに粘り強く取り組む様子が見えられます。ただ、無回答率の割合が高い教科があること、解答はしているのに正答できていないところがあることについては分析を深めていく必要があります。

	調査項目	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		調査項目
		名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	
小学校	国語	4.62	4.62	4.36	4.31	4.21	3.76	5.99	6.21	3.5	4.34	5.5	5.7	3.43	4.84	2.86	4.18	2.84	3.32	国語
	算数	7.84	7.37	7.02	6.42	9.48	7.93	5.47	2.66	2.39	2.64	3.12	3.49	2.66	3.43	2.42	3.37	2.74	3.61	算数
	理科	—	—	—	—	1.46	1.21	—	—	—	—	3.62	3.58	—	—	—	—	2.76	2.83	理科
中学校	国語	2.92	4.39	2.17	3.8	1.96	3.01	1.86	2.64	3.52	4.36	4.31	4.26	4.08	4.59	3.4	3.92	6.10	6.69	国語
	数学	9.45	14.69	8.88	11.71	8.33	12.61	5.79	7.31	8.39	11.15	11.14	10.75	8.34	9.62	9.76	11.25	9.22	10.64	数学
	英語	—	—	—	—	—	—	4.27	5.99	—	—	—	—	5.53	5.69	—	—	—	—	英語
	理科	—	—	—	—	3.36	5.04	—	—	—	—	4.03	3.44	—	—	—	—	1.73	1.83	理科

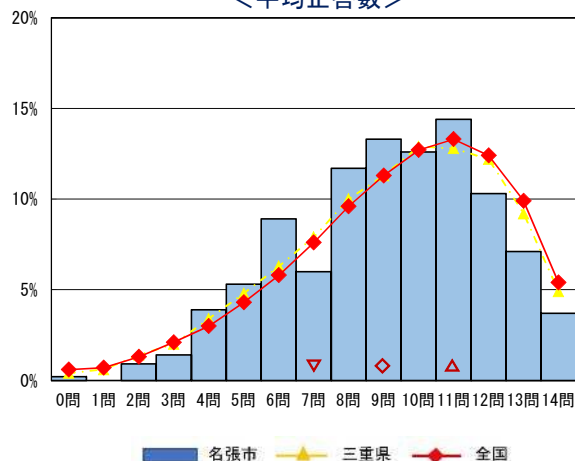
無解答率が全国と同じか低い 無解答率が全国より高い



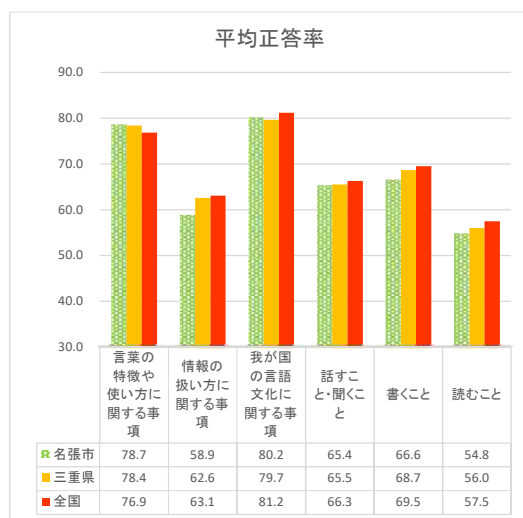
2 各調査項目の結果概要

小学校		国語		
	名張市	全国	差	
平均正答率	65	66.8	-1.8	
無解答率	2.84	3.32	+0.48	

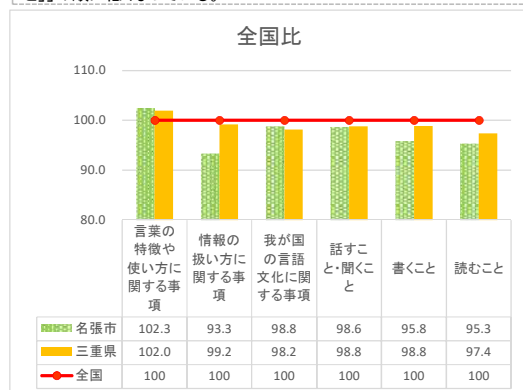
＜平均正答数＞



＜領域別／平均正答率＞

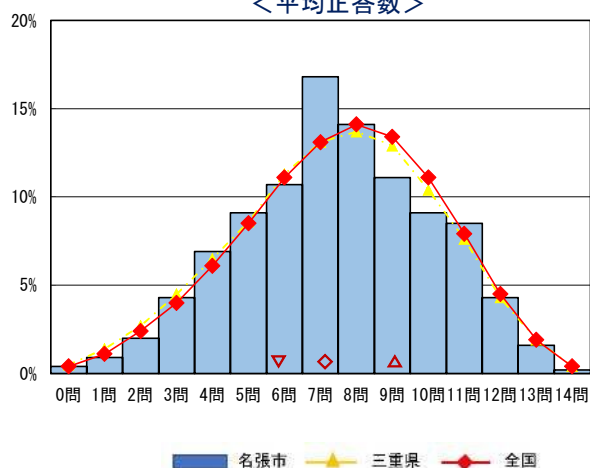


★領域別の正答率で見ると、名張市では「我が国の言語文化に関する事項」、次いで「言葉の特徴や使い方にに関する事項」が高く、「書くこと」「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方にに関する事項」「読むこと」の順に低くなっている。

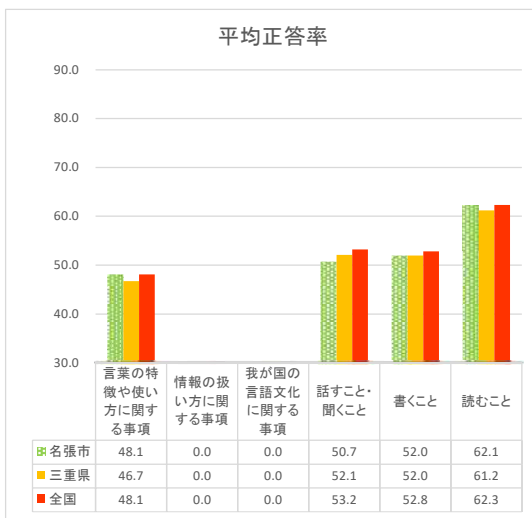


中学校		国語		
	名張市	全国	差	
平均正答率	53	54.3	-1.3	
無解答率	6.10	6.69	+0.59	

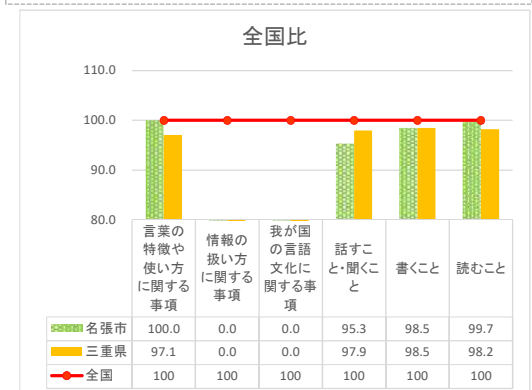
＜平均正答数＞



＜領域別／平均正答率＞



★領域別の正答率で見ると、名張市では「読むこと」が高く、次いで、「話す・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の順に低くなっている。



小学校		国語	
	名張市	全国	差
平均正答率	65	66.8	-1.8
無解答率	2.84	3.32	+0.48

大問1 二
 【第5学年及び第6学年】知識及び技能
 (2) 情報の扱い方に関する事項
 イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
 大問2 一
 【第3学年及び第4学年】思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
 イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

大問1 二	名張市	三重県	全国	全国との差	大問2 一	名張市	三重県	全国	全国との差
	58.9	62.6	63.1	- 4.2		58.9	63.7	65.5	- 6.6

問題の概要

【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する

出題の趣旨

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

問題の概要

【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する

出題の趣旨

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる

国語1 バスの運転士にインタビューをする

【話し合いの様子】

小森さん 質問すること整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたい。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだな。

小森さん 確かに、大変そうだね。【仕事で大切にしていること】で話してくれたことをきいて、【仕事で大切なこと】を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思ってたけど、大変なこともあるそうだな。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについては、聞くことについて考えるためにきいて聞きたいな。

小森さん うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめたよ。この進め方でいいかな。

【話し合いの記録】

働くこと（バスの運転士）

大切にしていること（やりがい）

予想（安全を守る、時間を守る）

大変なこと → 大変なことに続ける理由

【話し合いの様子】の小森さんは、インタビューをどのように進めようと考えていましたか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。

1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手の答えやすい内容を選ぶようにしている。

3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手の答えやすい内容を選べるようにしている。

4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。そのよさは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなよさがあり、さまざまなよさを遊ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたものがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のしゅみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手ぬぐいをふくだけではなく、身にかけたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

あつい日に、水でぬらして首にまく、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをさやうしゅし、両手が空くので仕事がいやしくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいには、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。みなさんもぜひ使ってみてください。

山田さんの学校では、伝統工芸品について学習するときに手ぬぐいについて学習しています。次の「ちらし」に書いています。これをもとに読んで、手ぬぐいのよさについて学習してください。

〈学習指導に当たって〉

大問1 二 では、バスの運転士に興味をもった小森さんたちが、バスの運転士に「インタビューで質問すること」について話し合っている。ここでは、小森さんが、「働くことについて考える」という目的に沿って、グループで出された意見を整理しようとしていることを捉えることが求められる。学習指導に当たっては、知りたことについて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが重要である。また、知りたことを聞くという目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識することも大切である。

大問2 一 では、山田さんが、「手ぬぐいのよさ」という伝えたいことの中心を明確にして、それを伝えるために「もよう」と「使い方」という内容のまとまりで段落をつつていることを捉えることが求められる。学習指導に当たっては、文章を書く際にまずはそれぞれの児童が「何のためにその文章を書きたいのか」という目的を明確にもつことが大切である。その上で、その目的を達成するには、「何を書きたいのか」を整理し、書く内容の中心を決めることが重要である。児童によっては、書く内容の中心は明確になっているが、内容のまとまりごとに構成できない児童もいると考えられる。その場合は、第5学年及び第6学年の「思考力、判断力、表現力等」-45-の「B書くこと」の(1)「A目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。」と関連付けながら内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えることが効果的である。

[令和7年度全国学力・学習状況調査「報告書」より]

中学校		国語	
	名張市	全国	差
平均正答率	53	54.3	-1.3
無解答率	6.10	6.69	+0.59

大問2 ー
 [第2学年] 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。《表現、共有(話すこと)》
 大問4 ー
 [第1学年] 思考力、判断力、表現力等 B 書くことエ読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。《推敲》

大問2 ー	名張市	三重県	全国	全国との差	大問4 ー	名張市	三重県	全国	全国との差
	33.5	35.9	38.1	- 4.6		52.5	54.6	57.3	- 4.8

問題の概要

スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する

出題の趣旨

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる

問題の概要

手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する

出題の趣旨

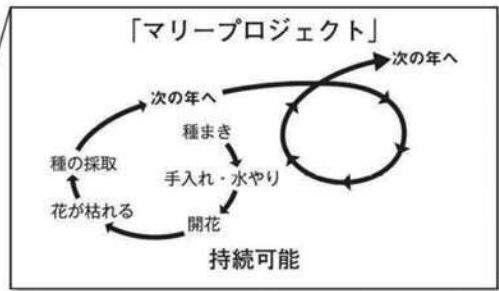
読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる

ー 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の——線部分「スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。」のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 聞き手によって経験が違ふことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返し話している。
- 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだけでなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

〈スライド①〉



【手紙の下書きの一部】

先日、
 さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれました。ありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。
 この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでしたが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

ー 三上さんは、【手紙の下書きの一部】に、一箇所、漢字の誤りがあることに気づきました。三上さんの修正の仕方をして、誤って書かれている漢字を線で消し、消した漢字の右横に、正しい漢字を書きなさい。

〈学習指導に当たって〉

大問2 ー 資料や機器を用いるのは、話の要点や 根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に 分かりやすく伝えるためである。これらを踏まえて、伝えたい内容を適切に伝えるためには、どのような資料や機器を、どのように用いればよいのかを考えることができるよう指導することが大切である。例えば、スピーチにおける資料や機器の用い方に着目し、どのような資料を示して、どのように話し方の工夫がされているかを確認する学習活動が考えられる。具体的には、意見とそれを支える根拠を話す際に、スライドで意見だけを要約して示すことで、自分の意見が聞き手の印象に残るようにしたり、聞き手によって経験が違ふことを考慮してスライドで補足の情報を示しながら話の要点を絞ったりすることなどが考えられる。

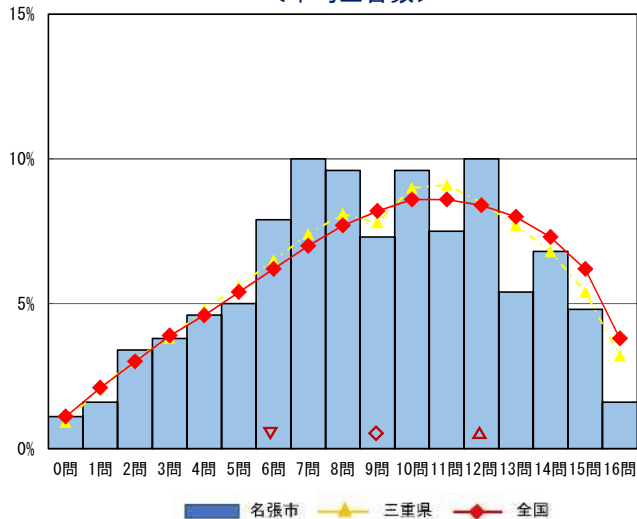
大問4 ー 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切かなどを確かめて文章を整えることが重要である。その際、書いた文章を読み返す必然性がある言語活動を設定し、既習の事項を生かして文章を整えることができるよう指導することが大切である。例えば、お礼の手紙を書き、読み手の立場から文章を読み返して整える学習活動が考えられる。その際、文章で使った漢字を辞書や1人1台端末を利用して確かめることが有効である。また、第1学年〔知識及び技能〕の(1)イと関連を図り、漢字を「文や文章の中で使う」際、誤って使った漢字を書きためておくことや、同音異義語など、意味や表記を間違えやすい漢字を日頃から意識して使う指導をすることが大切である。

〔令和7年度全国学力・学習状況調査「報告書」より〕

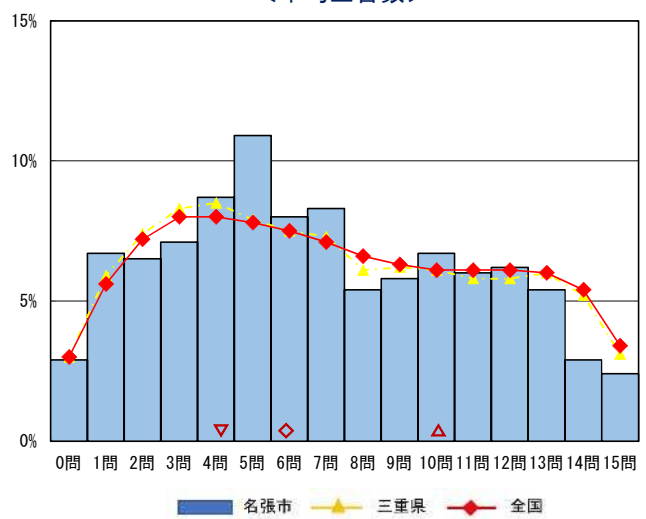
小学校	算数		
	名張市	全国	差
平均正答率	55	58.0	-3.0
無解答率	2.74	3.61	+0.87

中学校	数学		
	名張市	全国	差
平均正答率	46	48.3	-2.3
無解答率	9.22	10.64	+1.42

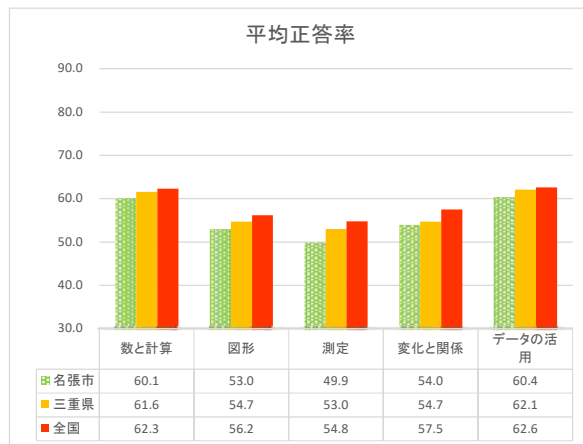
＜平均正答数＞



＜平均正答数＞

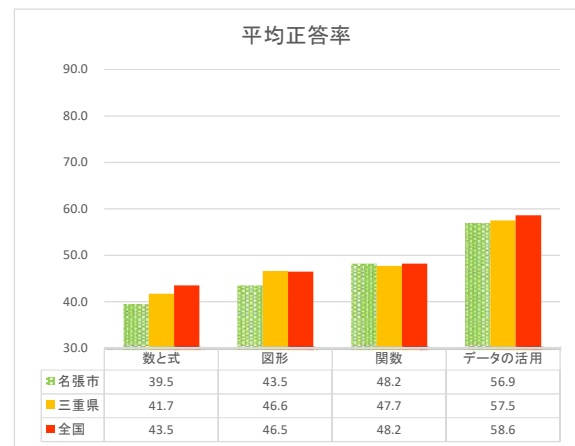


＜領域別／平均正答率＞



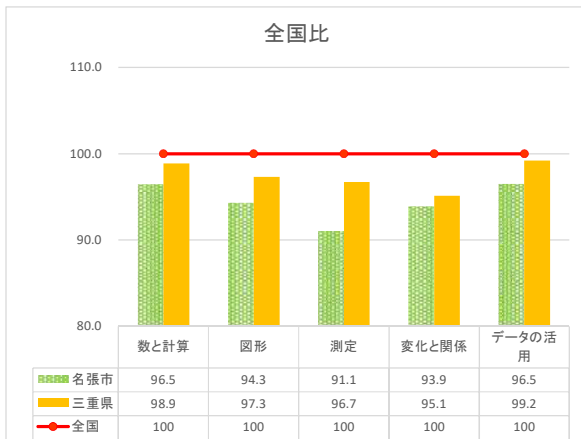
★領域別の正答率で見ると、名張市では「データの活用」が高く、次いで、「数と計算」「変化と関係」「図形」「測定」の順に低くなっている。

＜領域別／平均正答率＞

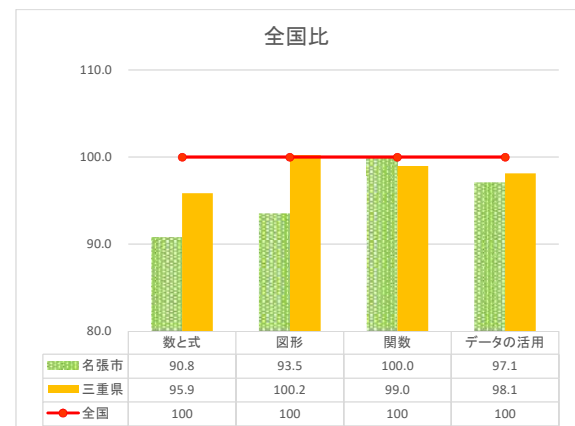


★領域別の正答率で見ると、名張市では「データの活用」が高く、次いで「関数」「図形」「数と式」の順に低くなっている。

全国比



全国比

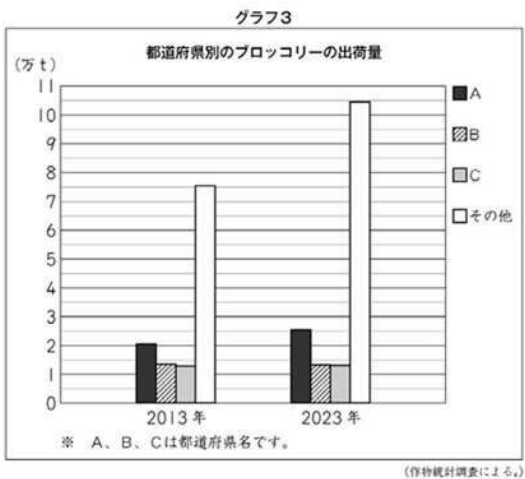
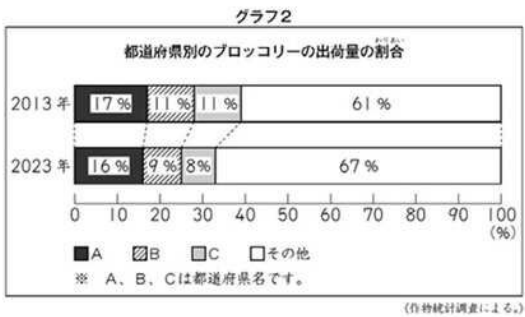


小学校	算数		
	名張市	全国	差
平均正答率	55	58.0	-3.0
無解答率	2.74	3.61	+0.87

大問1(2)
 [第3学年] D データの活用
 (1) (イ) 棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。
 [第5学年] D データの活用
 (1) (ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること
 大問4(2)(3)
 (2) [第3学年] A 数と計算 C 測定 [第4学年] C 変化と関係 [第5学年] D データの活用
 (3) [第3学年] C 測定 (1) (イ) 長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること

大問1(2)	名張市	三重県	全国	全国との差
	25.7	31.6	31.0	- 4.3

問題の概要
 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く
出題の趣旨
 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる



あいり

グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。
 また、その記号を選んだおける、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。
 イ 2023年は2013年より減った。

大問4	名張市	三重県	全国	全国との差
(2)(3)	43.8	45.6	48.7	- 4.5
	56.1	60.3	60.9	- 4.8

問題の概要
 (2) 使いかけのハンドソープがあつて何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く
 (3) はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む
出題の趣旨
 (2) 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
 (3) はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる

このハンドソープの液体と容器を合わせた重さは270gでした。
 使いかけのハンドソープが空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るためには、270gの他に何がわかれればよいですか。
 下のアからエまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。
 また、その2つと270gを使って、あと何プッシュすることができるのか、その求め方を式や言葉を使って書きましょう。

- ア 新品のハンドソープの重さ 360g
 イ ハンドソープの容器の重さ 60g
 ウ 1プッシュ分のハンドソープの液体の重さ 3g
 エ かんさんが1日に手を洗う回数の平均 7回

(3) あさひさんたちは、さらに別の容器のハンドソープの重さを調べています。
 そのハンドソープを容器ごとにはかりにのせると、下の図のようになりました。
 はかりの針が指している目もりは何gですか。
 答えを書きましょう。



〈学習指導に当たって〉

大問1(2) データの中の数量の大きさの違いを一目で捉えることができるという棒グラフの特徴や、複数のデータについて項目の割合を比較することができるという帯グラフの特徴を理解できるようにすることが大切である。また、その判断の理由について、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、他者に分かりやすく表現できるようにすることも大切である。

大問4(2) 日常生活の問題解決のために、複数の情報から場面に基づいて必要な数量を見だし、それらの数量の関係を捉えるとともに、その関係を式や言葉の式に表現できるようにすることが重要である。絵や図などを用いて使いかけのハンドソープの重さには容器の重さも含まれていることを捉えることができるようにすることが大切である。〔令和7年度全国学力・学習状況調査「報告書」より〕

中学校		数学	
	名張市	全国	差
平均正答率	46	48.3	-2.3
無解答率	9.22	10.64	+1.42

大問1
 〔第1学年〕A 数と式(1)(ア)正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。
 大問9(2)
 〔第2学年〕B図形(2)う指導する。イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。(ア)三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。

大問1	名張市	三重県	全国	全国との差
	21.2	26.5	31.8	- 10.6

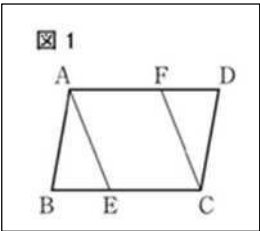
大問9(2)	名張市	三重県	全国	全国との差
	30.7	35.1	36.3	- 5.6

問題の概要
 1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ
 出題の趣旨
 素数の意味を理解しているかどうかをみる

1

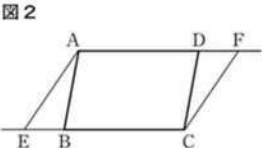
下の 1 から 9 までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9



問題の概要
 平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する
 出題の趣旨
 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる

(2) 次の図 2 のように、平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点 E、F をそれぞれとって、四角形 AECF は平行四辺形になります。このことは、前ページの証明 1 の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでの中から 1 つ選び、正しく書き直しなさい。



- ア

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $AF \parallel EC$ ①
- イ

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ②
- ウ

仮定より、
 $DF = BE$ ③
- エ

②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ④
- オ

④より、
 $AF = EC$ ⑤
- ①、⑤より、
 1 組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形 AECF は平行四辺形である。

〈学習指導に当たって〉

大問1 整数の性質について考察する場面において、整数を様々な視点で分類し、1 より大きい自然数のうち、1 とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切である。

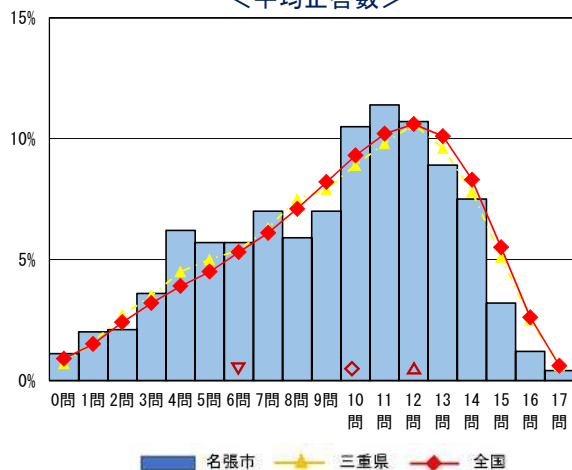
大問9(2) 本設問を使って授業を行う際には、証明1 と図2 を関連付けて読み、証明1 の①から⑤の 中で変わらない関係と変わる関係について確認する活動を取り入れることが考えられる。例えば、②「 $AD = BC$ 」、③「 $DF = BE$ 」は図2 においても変わらない関係であることのように、書き直す必要がない部分があることを確かめることが大切である。さらに、証明1 では、④「 $AD - DF = BC - BE$ 」であることを根拠に⑤「 $AF = EC$ 」を示しているが、④の関係を示す長さの辺が図2 にはないことに気付けるようにすることが大切である。その上で、④以降の証明をどのように書き直せばよいかを検討する活動を取り入れることが考えられる。その際、図2 において、④を「 $AD + DF = BC + BE$ 」に書き直す必要があるが、⑤は書き直す必要がないと判断するなどして、条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。

〔令和7年度全国学力・学習状況調査「報告書」より〕

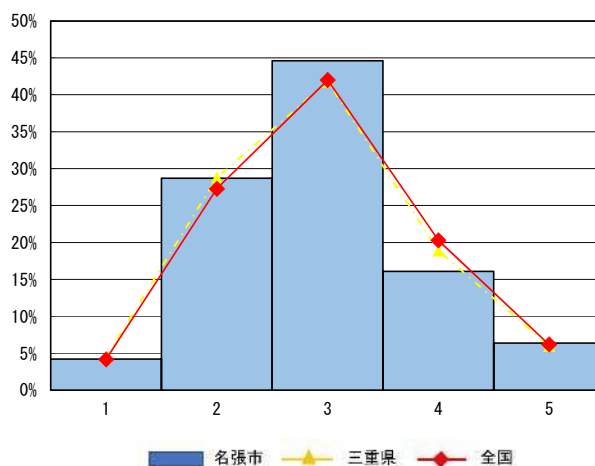
小学校	理科		
	名張市	全国	差
平均正答率	54	57.1	-3.1
無解答率	2.76	2.83	+0.07

中学校	理科		
	名張市	全国	差
平均正答率	49.5	503.0	-8.0
無解答率	1.73	1.83	+0.10

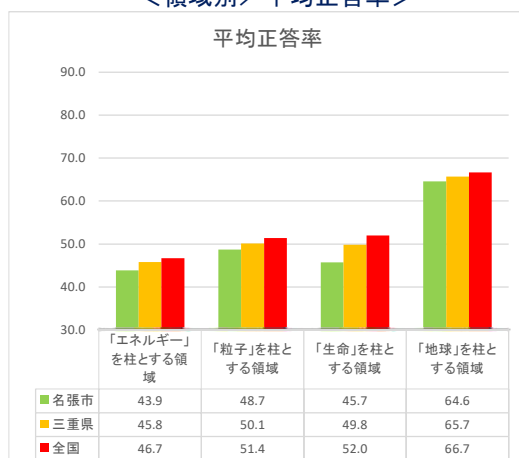
＜平均正答数＞



＜IRTバンド分布＞

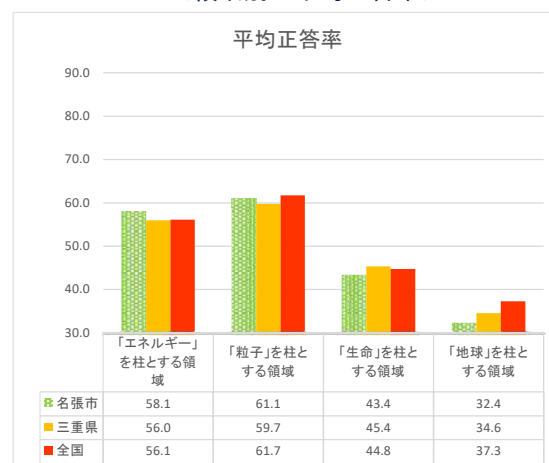


＜領域別／平均正答率＞



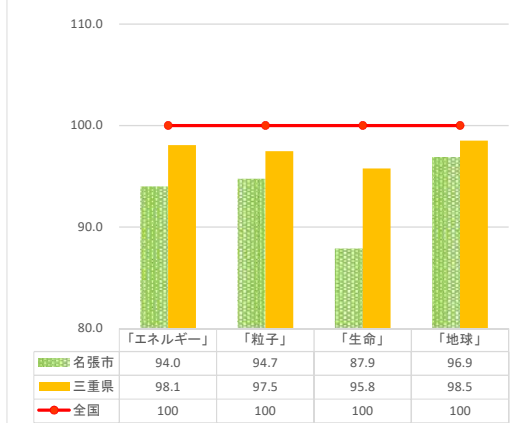
★領域別の正答率で見ると、「地球」を柱とする領域が一番高く、次いで「生命」、「粒子」、「エネルギー」の順に低くなっている。

＜領域別／平均正答率＞

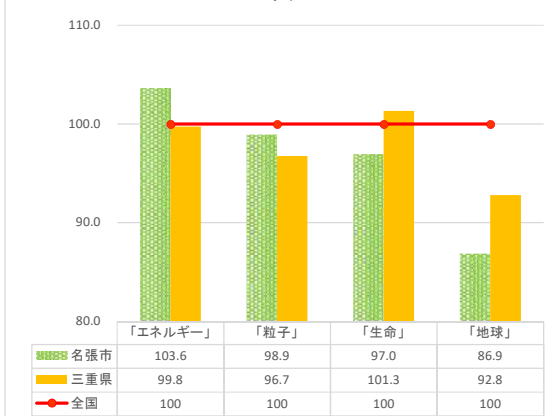


★領域別の正答率で見ると、名張市では「粒子」が一番高く、次いで「エネルギー」、「生命」、「地球」の順に低くなっている。

全国比



全国比



小学校		理科	
	名張市	全国	差
平均正答率	54	57.1	-3.1
無解答率	2.76	2.83	+0.07

大問3(3)

〔第5学年〕B 生命・地球(1) イ 植物の育ち方について追究する中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

大問4(2)エオ

〔第4学年〕A 物質・エネルギー

〔第4学年〕B 生命・地球

大問3(3)	名張市	三重県	全国	全国との差
	51.7	57.4	62.0	- 10.3

大問4(2) エオ	名張市	三重県	全国	全国との差
	49.6	54.3	57.5	- 7.9

問題の概要

ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ

出題の趣旨

発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することできるかどうかをみる

問題の概要

水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ

出題の趣旨

水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる

(3) 【方法③】のケとコは、それぞれどのような条件で実験すればよいですか。ケとコにあてはまる実験を、下の1から4の中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

1

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり(種子が空気にふれている)
- ・温度(室温)
- ・日光なし(箱をかぶせている)
- ・肥料なし

2

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり(種子が空気にふれている)
- ・冷蔵庫の中(約5℃)
- ・日光なし(箱をかぶせている)
- ・肥料なし

3

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気なし(種子が空気にふれていない)
- ・温度(室温)
- ・日光なし(箱をかぶせている)
- ・肥料なし

4

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり(種子が空気にふれている)
- ・温度(室温)
- ・日光あり(直接日光が当たらない明るい所)
- ・肥料なし

ひろみさんたちは、水のすがたに関する学習をまとめています。

水のすがた

Aで、液体の水は温められて、ふっとうしている。

Bで、水蒸気は冷やされて、湯気になっている。

Cで、湯気は(イ)で、(ウ)になっている。

Dで、(ウ)は(エ)で、(オ)になっている。

以上のように、水は温度によって、すがたを変える。

〈学習指導に当たって〉

大問3(3) 予想や仮説を基に、実験に関する全ての条件を明確にした上で、どの条件を変える必要があるかを検討したり、他の条件は全て同じになっているかを確認したりすることが大切である。例えば、本設問のように、実験に関する条件が多いとき、温度を変えることを意図していても、結果として日光と温度の2つの条件が異なる実験方法になっていることがある。図や表などに整理したり、実験前に計画を見直したりして、検証したい条件のみが変わっているかを確認する学習活動が考えられる。

大問4(2)エオ 習得した個別の知識を概念的に理解するためには、学習内容を他の学習や生活と関連付けることが大切である。指導に当たっては、知識を関連付けてより深く理解するために、加熱をしなくても水が蒸発する場面を生活の中から探したり、低い温度で水が蒸発する場面と沸騰で蒸発する場面との差異点や共通点を整理したりすることを通して、水の状態変化について概念的に理解していくような指導が考えられる。

〔令和7年度全国学力・学習状況調査「報告書」より〕

(エ)

- 7 蒸発し
- 8 温められ
- 9 冷やされ

(オ)

- 10 水蒸気
- 11 液体の水
- 12 氷

中学校		理科	
	名張市	全国	差
平均正答率	49.5	503.0	-8.0
無解答率	1.73	1.83	+0.10

大問5(2)第1分野(4)化学変化と原子・分子(イ)化学変化 ⑦化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解すること。
大問9(2)第2分野(4)気象とその変化(ア)気象観測 ⑦気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだして理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連付けて理解すること。

大問5(2)	名張市	三重県	全国	全国との差
	24.8	34.1	35.6	- 10.8

大問9(2)	名張市	三重県	全国	全国との差
	40.4	49.3	58.1	- 17.7

問題の概要

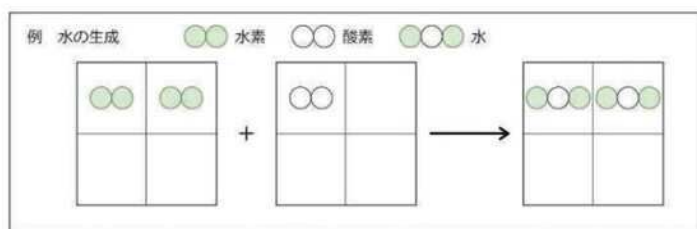
実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す

出題の趣旨

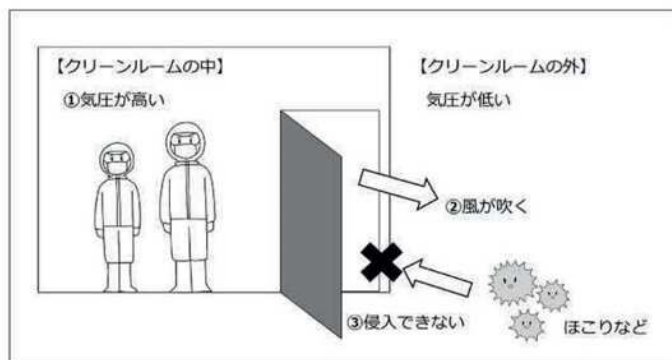
化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる

大問5

マグネシウム原子●、二酸化炭素○●○、酸化マグネシウム●○●、炭素●と表したとき、下線部の科学変化はどのように表すことができますか。「例 水の生成」を参考に□にモデルを移動して、化学変化をモデルで表しなさい。なお、使用しないモデルもあります。



大問9



【図の補足説明】

- ①クリーンルームの中の気圧を常時高くしておく。
- ②風がクリーンルームから外へ向けて吹く。
- ③そのため、ほこりなどはクリーンルームに侵入することができない。

(2)

クリーンルームのほかに気圧を利用している最も適切な事象を1つ選びなさい。



〈学習指導に当たって〉

大問5

化学変化を原子や分子のモデルで表すなど、自然の事象・現象を質的・実体的な視点で捉えることは大切である。化学変化における「反応する物質」と「生成してできた物質」を整理した上で、「化学変化の前後で原子の種類は変わらず、原子の数も変化しない」という知識を確認し、微視的に事象を捉えることが大切である。微視的に事象を捉える際には、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

大問9(2)

理科では、気圧に関する身近な事象を、身に付けた知識及び技能と関連付けて捉えることが大切である。指導に当たっては、本問のように、様々な事象の中から気圧が関係するものを選択したり、気圧を利用している身近な事象を説明したりする学習場面を設定することが考えられる。その際、実験等を行い、生徒が気圧を実感できるようにすることが大切である。

〔令和7年度全国学力・学習状況調査「報告書」より〕

3—① 児童生徒質問調査結果

「児童生徒質問調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査です。

ここでは、調査の中からいくつかの質問事項を取り上げ、名張市平均を前回調査の令和6年度と比較したときの増減を矢印で、全国平均と比較したときの差を数値で示しています。

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

↗ (前回より上昇、全国より上) ↘ (前回より上昇、全国より下)

↘ (前回より下降、全国より上) ↗ (前回より下降、全国より下)

	質問事項	年度	R6	増減	R7
学習習慣等	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師等含む (2時間以上勉強する)	名張市	16.2	↗	19.8
		全国	23.5		24.9
		全国との差	-7.3		-5.1
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師等含む (2時間以上勉強する)	名張市	13.5	↗	16.7
		全国	21.5		21.5
		全国との差	-8.0		-4.8
	学校の授業時間以外に普段1日どれくらいの時間読書をしますか ※漫画等を除く (30分以上読書する)	名張市	-		28.8
		全国	-		31.1
		全国との差	-		-2.3
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	25.0	↘	22.5
		全国	24.1		24.1
		全国との差	+0.9		-1.6
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	44.3	↘	39.8
		全国	39.2		35.9
		全国との差	+5.1		+3.9
算数	算数の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	33.3	↗	35.8
		全国	34.0		33.7
		全国との差	-0.7		+2.1
	算数の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	47.7	↗	49.7
		全国	44.9		41.7
		全国との差	+2.8		+8.0
理科	理科の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	43.3	↗	45.3
		全国	53.1		51.7
		全国との差	-9.8		-6.4
	理科の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる) 【前回調査令和4年度】	名張市	54.7	↘	49.6
		全国	54.9		52.4
		全国との差	-0.2		-2.8

中学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R6	増減	R7
学習習慣等	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	26.7	↘	25.6
		全国	31.7		30.8
		全国との差	-5.0		-5.2
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	26.4	↗	27.3
		全国	36.2		32.5
		全国との差	-9.8		-5.2
	学校の授業時間以外に普段1日どれくらいの時間読書を読みますか ※漫画等を除く (30分以上読書する)	名張市	21.0	↘	19.3
		全国	28.4		21.4
		全国との差	-7.4		-2.1
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	21.5	↗	30.9
		全国	24.4		21.6
		全国との差	-2.9		+9.3
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	36.7	↗	41.2
		全国	32.0		25.4
		全国との差	+4.7		+15.8
数学	数学の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	34.9	↘	33.7
		全国	29.4		26.5
		全国との差	+5.5		+7.2
	数学の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	48.7	↘	42.1
		全国	35.1		30.1
		全国との差	+13.6		+12.0
理科	理科の勉強は好きですか(当てはまる) 【前回調査令和4年度】	名張市	26.4	↗	27.7
		全国	33.3		30.0
		全国との差	-6.9		-2.3
	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科の関する疑問を持ったり、問題を見いだしたりすることがありますか (当てはまる)	名張市	25.4	↘	18.3
		全国	32.5		18.0
		全国との差	-7.6		+0.3

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R6	増減	R7
授業改善等	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(当てはまる)	名張市	28.8	↘	26.2
		全国	29.5		29.0
		全国との差	-0.7		-2.8
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思いますか。(当てはまる)	名張市	37.9	↗	41.5
		全国	41.4		40.9
		全国との差	-3.5		+0.6
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。(当てはまる)	名張市	32.4	↘	31.3
		全国	31.9		31.2
		全国との差	+0.5		+0.1
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか(当てはまる)	名張市	19.1	↗	20.3
		全国	25.9		26.8
		全国との差	-6.8		-6.5
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(当てはまる)	名張市	35.0	↘	30.1
		全国	36.3		36.5
		全国との差	-1.3		-6.4
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか(当てはまる)	名張市	45.4	↘	40.4
		全国	47.3		47.3
		全国との差	-1.9		-6.9
ICT	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	88.4	↘	87.8
		全国	85.5		89.7
		全国との差	+2.9		-1.9
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びに使う時間は除く)(全く使っていない)	名張市	33.7	↘	26.3
		全国	25.9		25.4
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	79.2	↗	79.3
		全国	83.4		83.3
		全国との差	-4.2		-4.0
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	36.4	↗	37.5
		全国	39.7		38.9
		全国との差	-3.3		-1.4
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	53.8	↗	56.5
		全国	56.1		55.6
		全国との差	-2.3		-0.9

中学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R6	増減	R7
授業改善等	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(当てはまる)	名張市	27.0	↗	27.2
		全国	27.2		23.4
		全国との差	-0.2		+3.8
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思いますか(当てはまる)	名張市	31.7	↗	39.6
		全国	36.4		35.1
		全国との差	-4.7		+4.5
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(当てはまる)	名張市	25.7	↘	25.0
		全国	27.1		23.0
		全国との差	-1.4		+2.0
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか(当てはまる)	名張市	17.2	↘	14.4
		全国	22.2		18.9
		全国との差	-5.0		-4.5
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(当てはまる)	名張市	30.9	↗	31.1
		全国	35.5		32.6
		全国との差	-4.6		-1.5
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか(当てはまる)	名張市	46.8	↗	51.7
		全国	49.8		48.7
		全国との差	-3.0		+3.0
ICT	1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	97.2	↗	98.3
		全国	89.0		92.2
		全国との差	+8.2		+6.1
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びに使う時間は除く)(全く使っていない)	名張市	24.8	↗	25.2
		全国	28.4		30.3
		全国との差	+3.6		+5.1
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	81.2	↘	80.6
		全国	79.1		78.7
		全国との差	+2.1		+1.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	35.5	↗	36.4
		全国	34.9		34.0
		全国との差	+0.6		+2.4
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	54.2	↗	56.1
		全国	55.3		54.7
		全国との差	-1.1		+1.4

小学校

※数字は、質問のあとに記載の（ ）内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R6	増減	R7
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	57.8	↗	58.5
		全国	60.6		60.7
		全国との差	-2.8		-2.2
	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	40.0	↘	37.3
		全国	43.4		47.3
		全国との差	-3.4		-10.0
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う(当てはまる)	名張市	52.3	↗	52.8
		全国	48.8		55.3
		全国との差	+3.5		-2.5
	人が困っているときは、進んで助けていますか(当てはまる)	名張市	45.8	↗	51.6
		全国	46.0		49.2
		全国との差	-0.2		+2.4
	友だち関係に満足している(当てはまる)	名張市	60.8	↗	64.9
		全国	62.4		64.2
		全国との差	-1.6		+0.7
	学校に行くのは楽しいと思う(当てはまる)	名張市	41.2	↗	41.3
		全国	47.2		49.9
		全国との差	-6.0		-6.6
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(当てはまる)	名張市	86.6	↗	86.7
		全国	79.5		81.4
		全国との差	+7.1		+5.3
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	71.7	↗	72.5
		全国	71.1		73.7
		全国との差	+0.6		-1.2
地域貢献	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(当てはまる)	名張市	27.5	↗	29.6
		全国	30.2		33.1
		全国との差	-2.7		-3.5
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(当てはまる)	名張市	35.5	↘	32.7
		全国	36.8		33.8
		全国との差	-1.3		-1.1
読書習慣	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)(0~25冊)	名張市	38.0	—	38.0
		全国	35.9		36.8
		全国との差	+2.1		-1.2
	学校の授業時間以外に普段どれくらい読書しますか【前回調査令和5年度】	名張市	34.8	↘	28.8
		全国	37.3		31.1
		全国との差	-2.5		-1.2

中学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

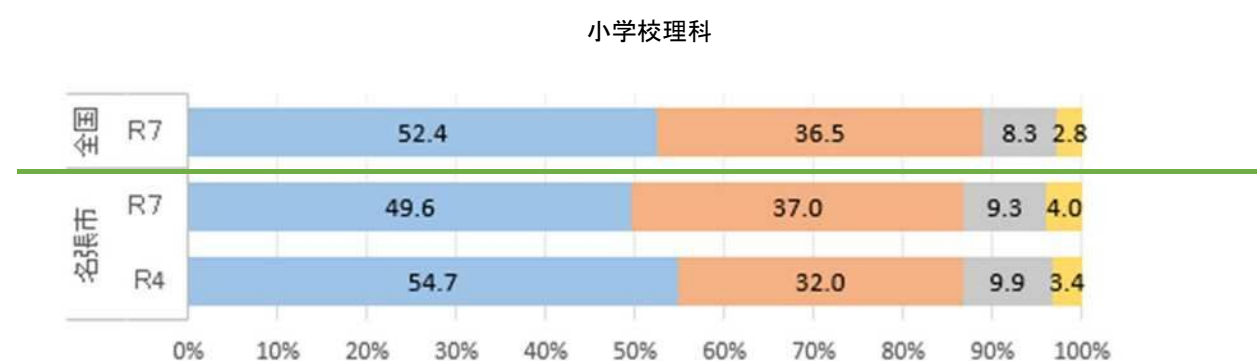
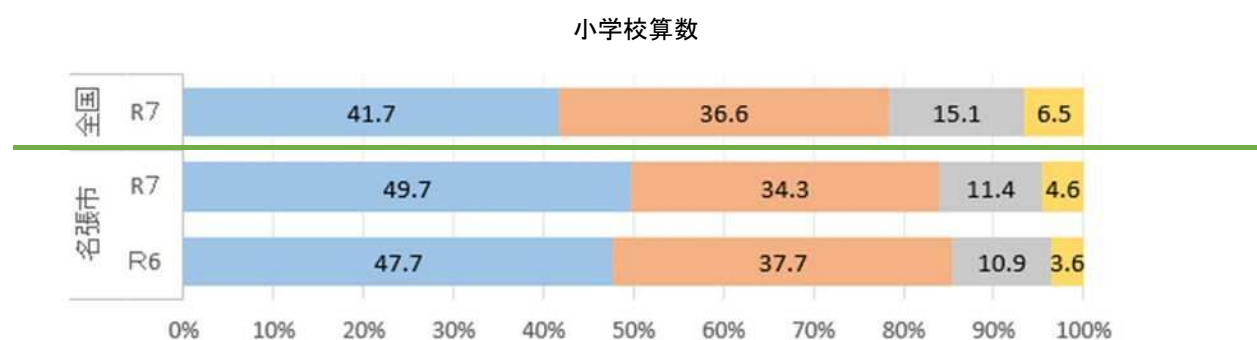
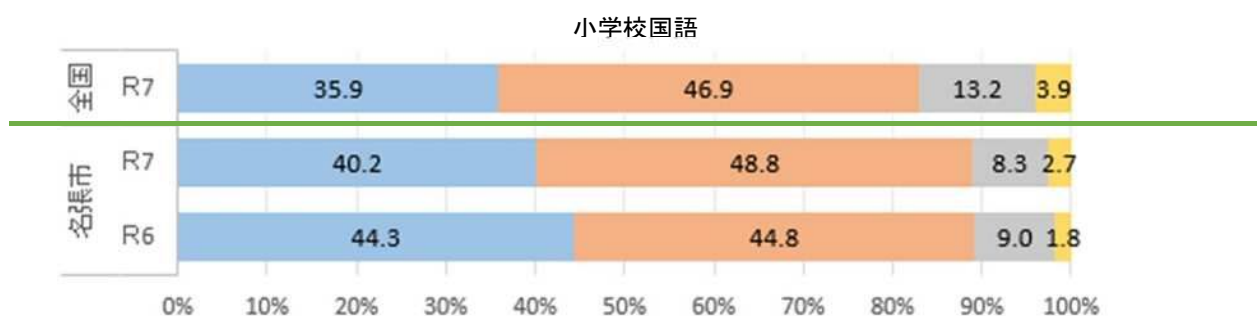
	質問事項	年度	R6	増減	R7
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	33.9	—	33.9
		全国	36.1		35.5
		全国との差	−2.2		−1.6
	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	38.9	↗	43.9
		全国	40.4		40.7
		全国との差	−1.5		+3.2
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う(当てはまる)	名張市	42.6	↗	50.8
		全国	44.2		46.6
		全国との差	−1.6		+4.2
	人が困っているときは、進んで助けていますか(当てはまる)	名張市	31.0	↗	35.9
		全国	38.3		37.9
		全国との差	−7.3		−2.0
	友だち関係に満足している(当てはまる)	名張市	53.7	↗	59.0
		全国	55.0		56.4
		全国との差	−1.3		+2.6
	学校に行くのは楽しいと思う(当てはまる)	名張市	39.9	↗	42.5
		全国	43.5		45.6
		全国との差	−3.6		−3.1
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(当てはまる)	名張市	78.0	↗	80.5
		全国	77.5		77.1
		全国との差	+0.5		+3.4
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	69.0	↗	71.6
		全国	68.6		71.3
		全国との差	+0.4		+0.3
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(当てはまる)	名張市	28.8	↗	30.7
		全国	28.7		31.9
		全国との差	+0.1		−0.2
地域貢献	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(当てはまる)	名張市	24.6	↘	20.4
		全国	26.4		22.4
		全国との差	−1.8		−2.0
読書習慣	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)(0~25冊)	名張市	42.4	↘	38.0
		全国	39.6		38.9
		全国との差	+2.8		−0.9
	学校の授業時間以外に普段どれくらい読書しますか【前回調査令和5年度】	名張市	20.7	↘	19.3
		全国	28.4		21.4
		全国との差	−7.7		−2.1

学校では

わかる授業のための授業改善に取り組んでいます。

質問項目:授業の内容はよく分かりますか

■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない



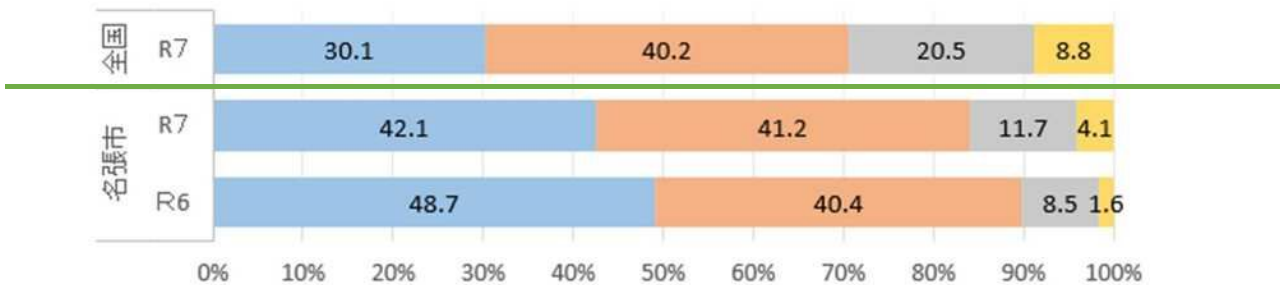
質問項目：授業の内容はよく分かりますか

■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

中学校国語



中学校数学



中学校理科



本市は肯定的な回答（よくわかる、どちらかというわかる）の割合は、小学校の理科以外の教科で、全国との比較においても高い結果がみられます。一方で、前回の調査よりも肯定的回答の割合が低くなっている教科があること、よく分らないと回答している児童生徒もいることから、子どもたちが「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」をより一層実感できる授業づくりに努め、主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図り、学力向上につなげます。

家庭では

家庭学習の習慣化に努める必要があります。

質問項目：1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（1時間以上）※学習塾、家庭教師含む



令和3年度から家庭学習が「1時間以上」と回答した児童生徒の割合が全国、三重県ともに減っている傾向がみられます。本市では全国平均より低い傾向が続いています。ただ、小学校では昨年度より割合が増え、三重県平均よりも高くなっています。家庭学習の出し方の工夫や、重要性についての啓発等、中学校区として、小中学校で共通した取組も展開されています。

家庭学習は、自ら学ぶ力の育成や学習内容の定着を図るために必要です。児童生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、学校と家庭が共通理解し、協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

3—② 児童生徒質問調査結果と教科の平均正答率との関係＜クロス集計＞

「児童生徒質問調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査です。

ここでは、「児童生徒質問調査」のうち、正答率の相関関係がみられそうなものや特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

グラフの見方

＜例示＞

質問事項

○今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

＜グラフ内の数値は(%)です＞

同じ質問に対し、
ページの左半分は小学校
右半分は中学校のグラフです。

中学校

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢別の割合を、そのまま表しています。
R7名張市平均（中段）を、全国平均（上段）、R6名張市平均（下段）とそれぞれ比較することができます。

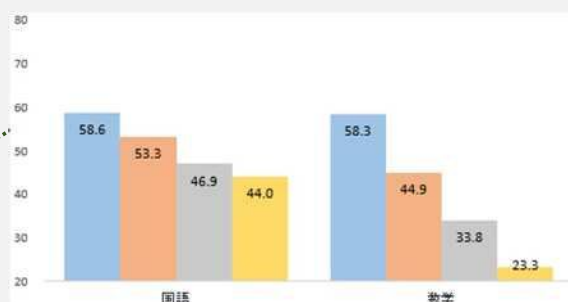
「今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」（当てはまる）と回答した生徒は、
全 国で 23.4%
名張市で 27.2% です。



肯定的回答はこの2つの合計

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢と、平均正答率との関係を、クロス集計しています。

右のグラフで、「当てはまる」と回答した生徒の、国語の平均正答率は、
名張市で 58.6% です。



「今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して、「国語」で見ると、

「当てはまる」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、58.6%、

「当てはまらない」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、44.0%で

14.6%の開きがあり、

「当てはまる」と回答している生徒ほど、

「国語」の調査問題の正答率も高いということがわかります。

「数学」でも、35.0%、の開きがあり、

「肯定的な回答をしている生徒ほど、平均正答率が高い」という傾向が、顕著に表れています。

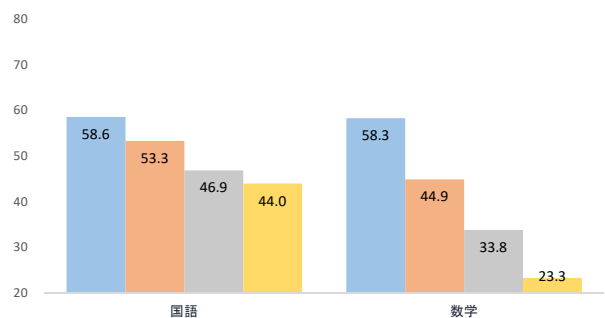
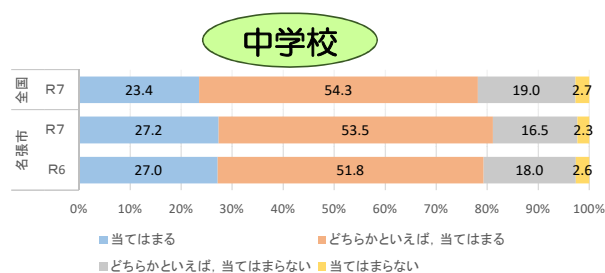
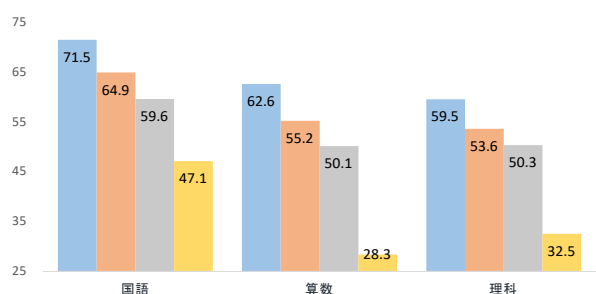
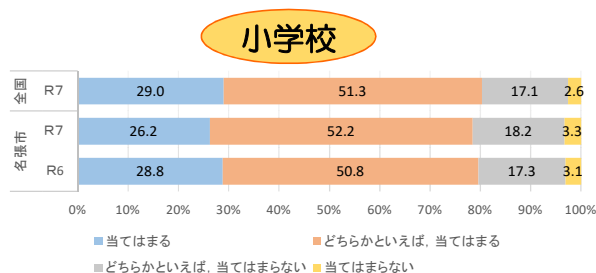
※いずれのグラフにも無回答率は掲載していません。

また、質問によっては、回答項目（時間帯等）が多いため、傾向がわかる回答項目（時間帯）に関してのみ、掲載しています。そのため、合計数値が100%になっていない場合があります。

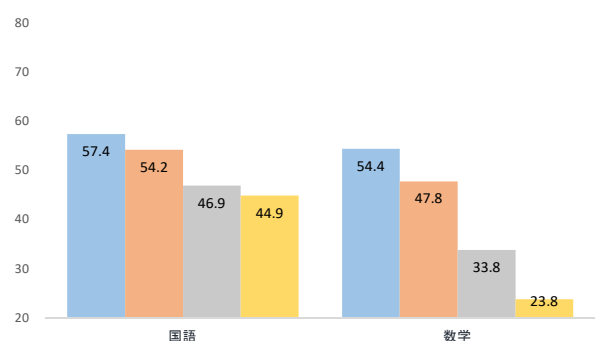
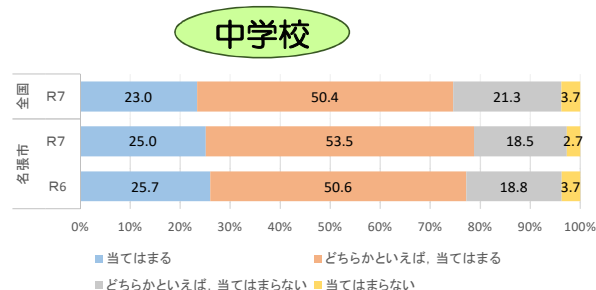
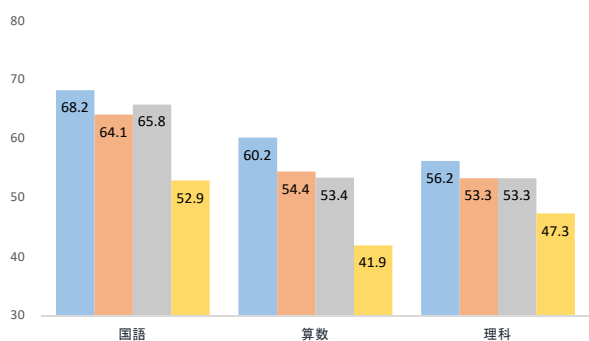
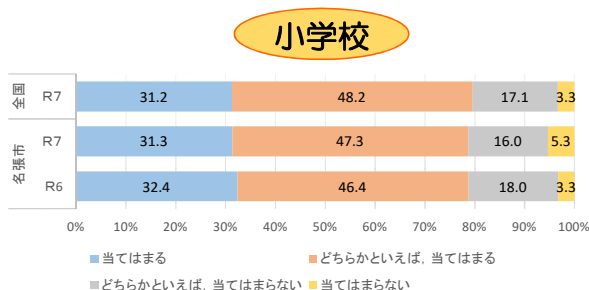
※中学校の理科はIRTスコアのため、クロス集計をグラフであらわしていません。

(1) 学校教育に関すること

①今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

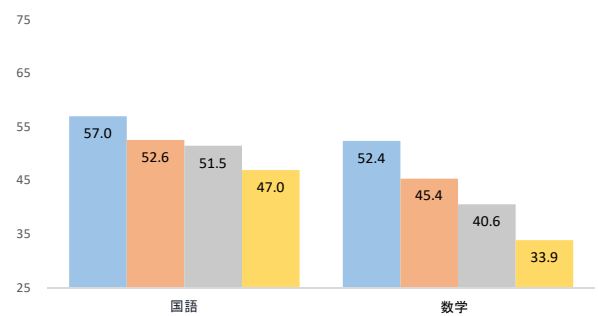
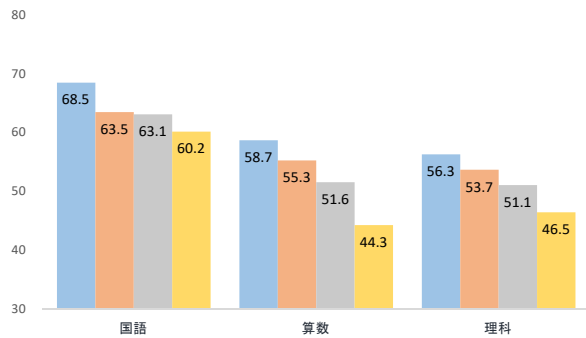
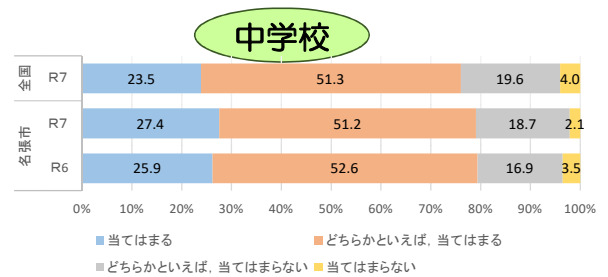
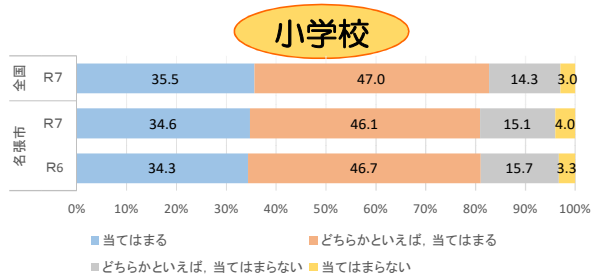


②学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

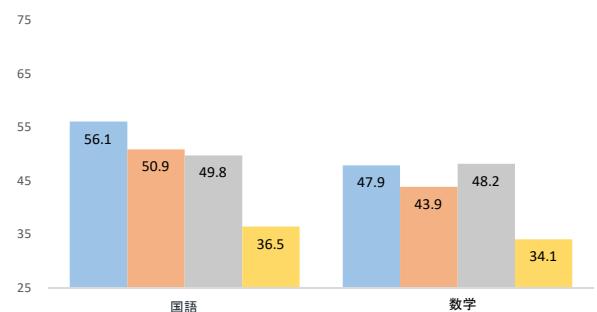
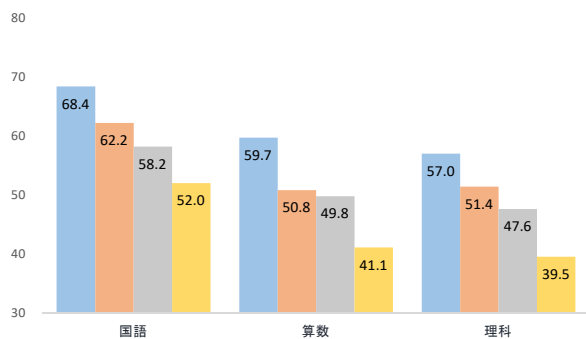
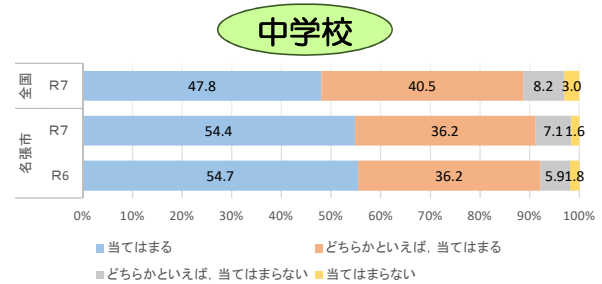
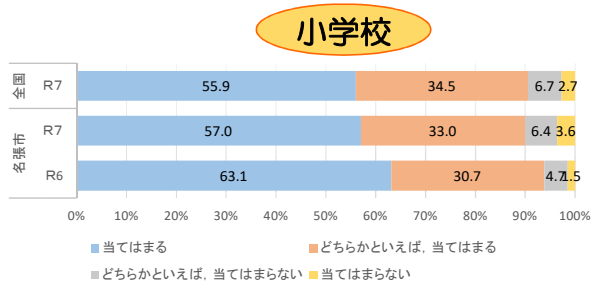


①②の質問はともに、自ら学ぶ、次につなげるといった主体的な姿勢が問われています。肯定的回答と正答率には相関関係があると捉えることができます。主体的に取り組むことができる場面設定や価値づけ等の工夫が必要です。

③授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか

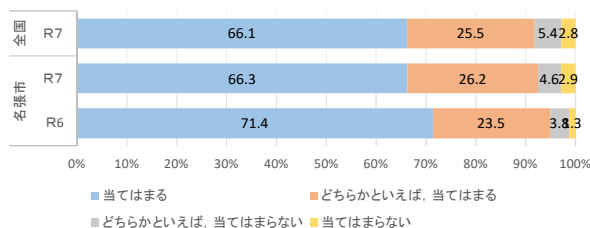


④国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

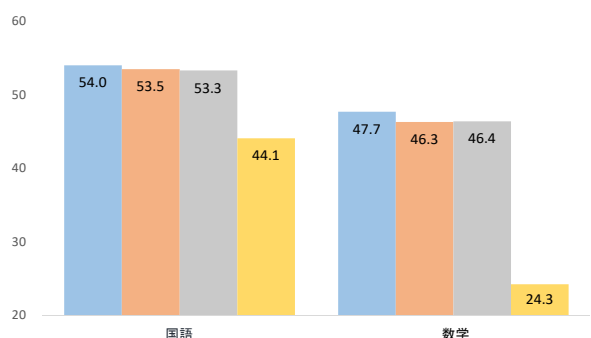
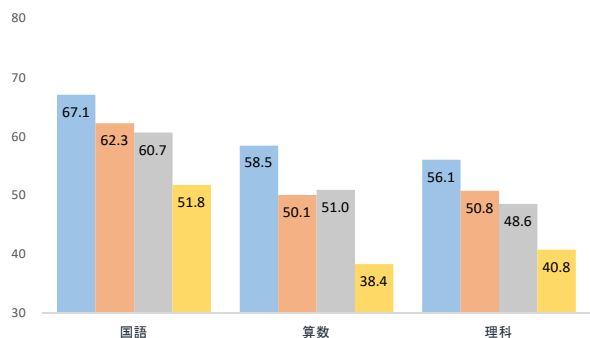
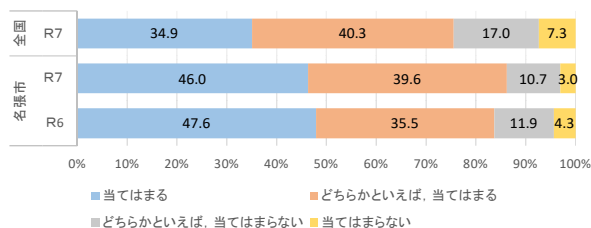


⑤算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

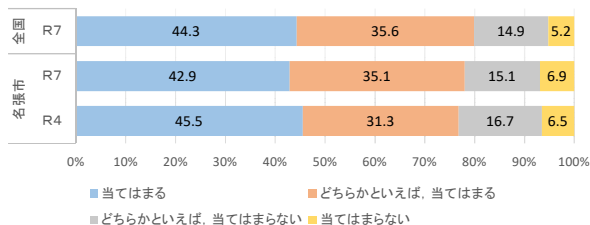


中学校

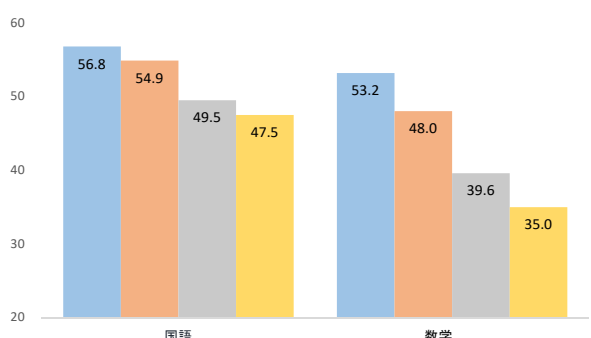
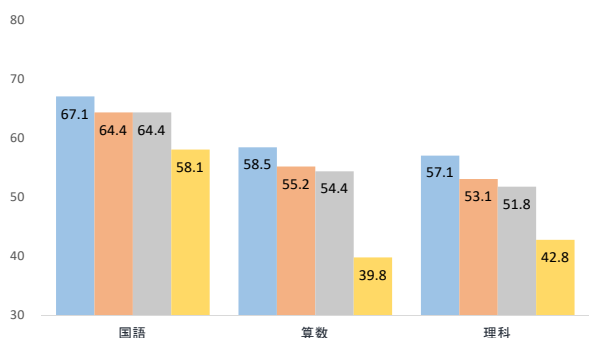
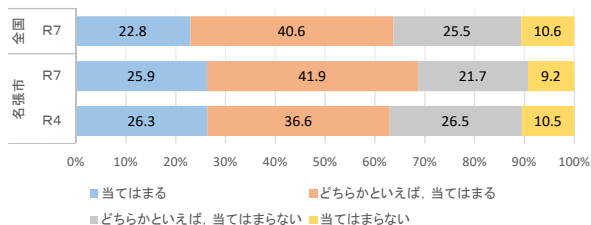


⑥理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校



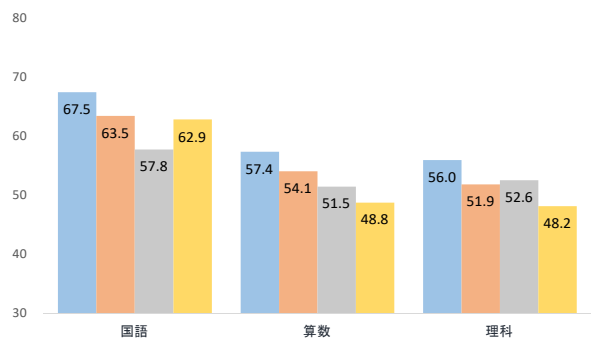
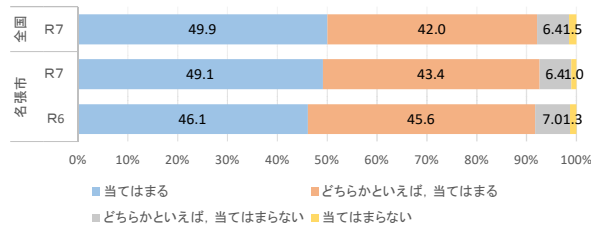
中学校



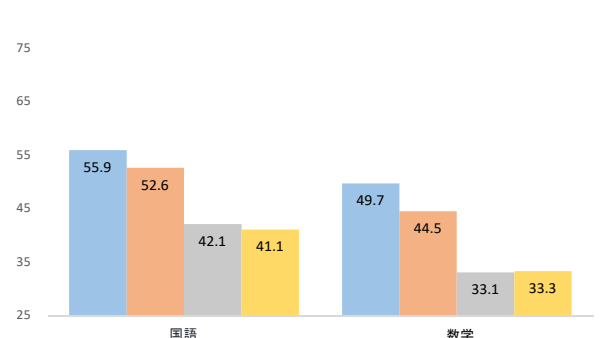
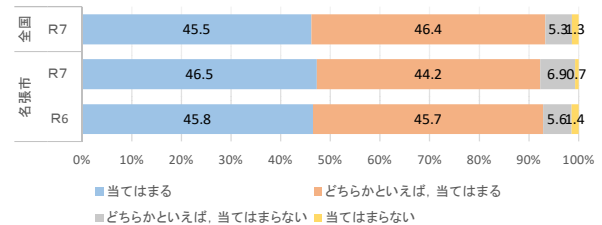
③～⑥の質問は学んだことが実生活に結び付く、いかせる、役に立つと考えているかを問われています。正答率との相関関係がみられます。学んだことが実生活とどうつながっているかの関連付け、各教科での学びや考え方、アプローチの仕方が今後にどうつながっていくのかなどを伝えていくことが学習に向かう動機につながっていくと捉えています。

⑦授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

小学校

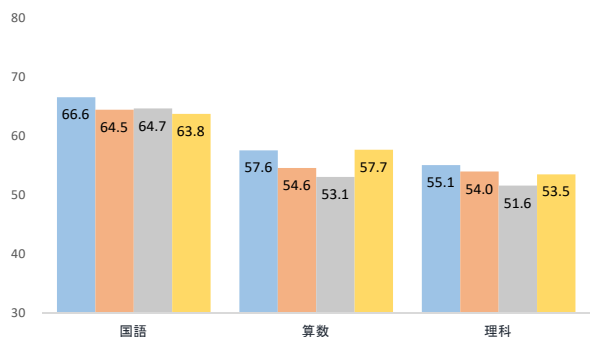
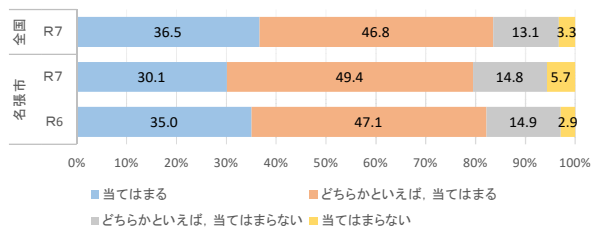


中学校

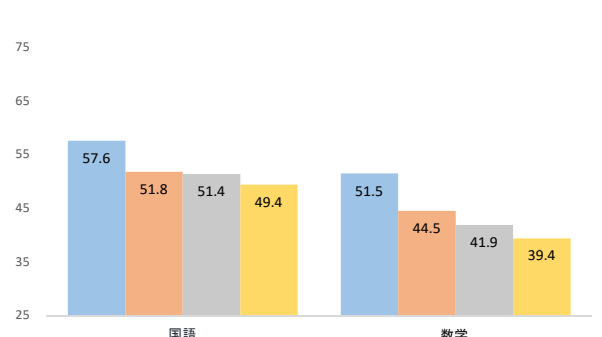
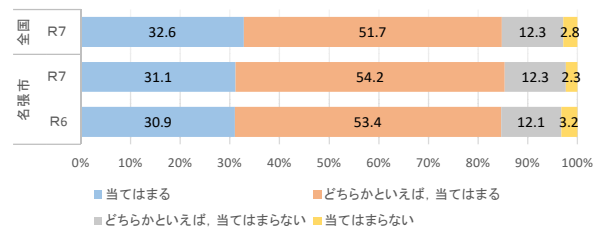


⑧あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

小学校



中学校

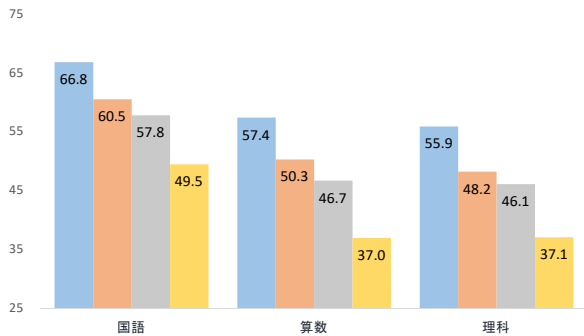
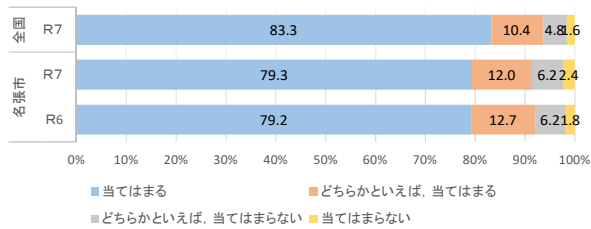


⑦⑧は友達や周りの人を大切にする、学級をよりよくしようとする等、周囲とのかかわりについてです。教科の授業の質の向上だけでなく、安心できる人間関係、学級づくりも学力の向上につながる取組です。

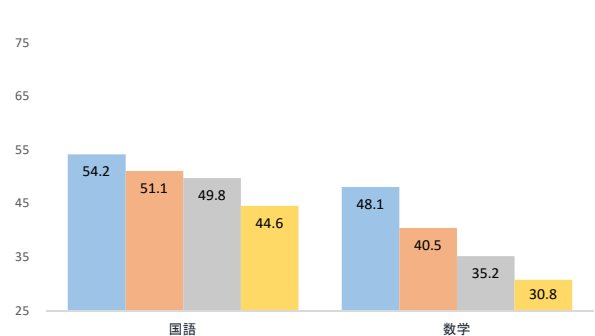
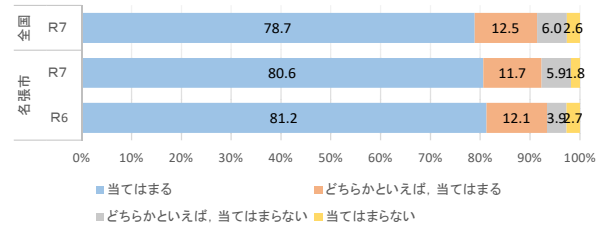
(2) 生活習慣に関すること

①朝食を毎日食べていますか。

小学校

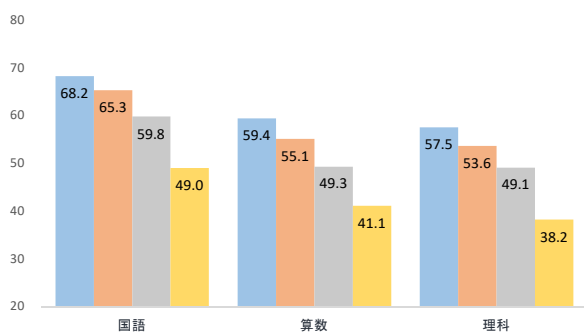
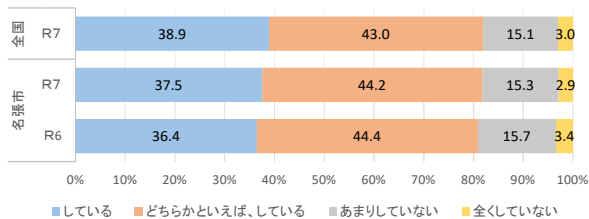


中学校

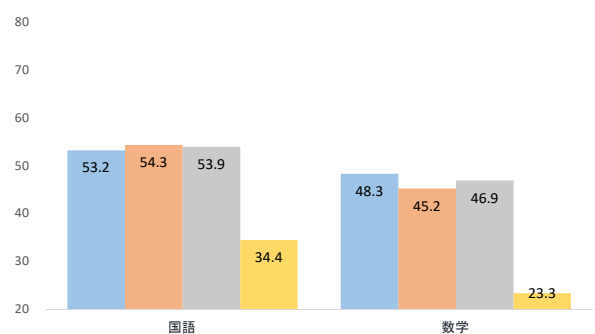
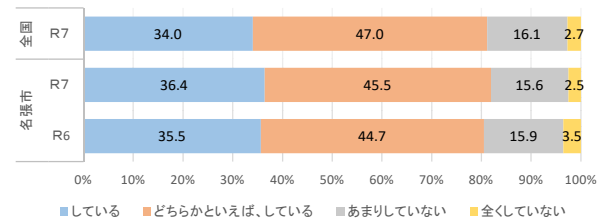


②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

小学校

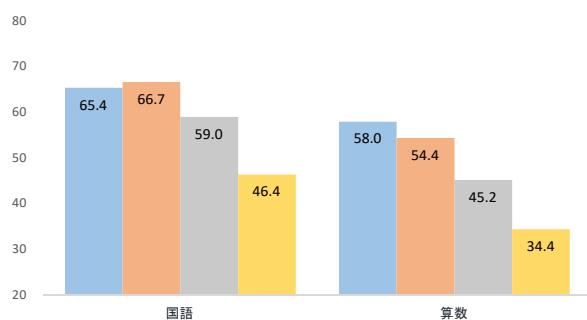
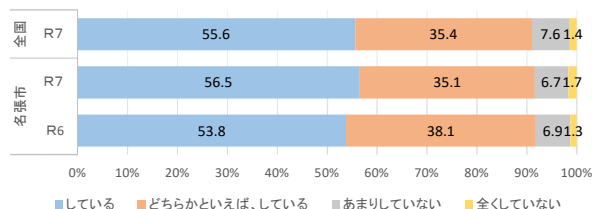


中学校

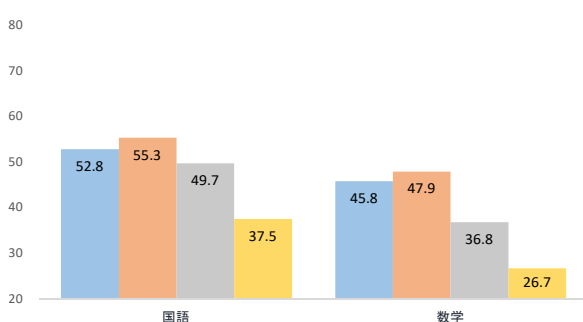
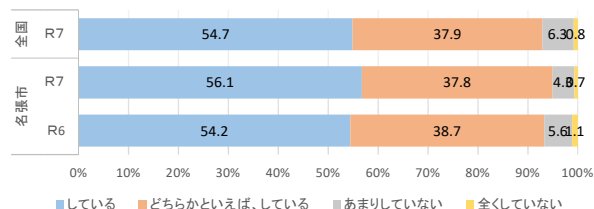


③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

小学校



中学校



【生活習慣で特徴的なこと】

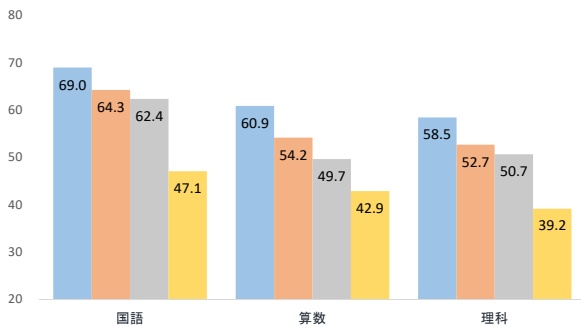
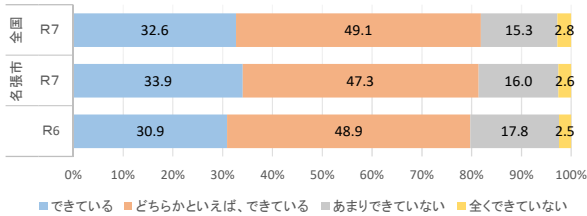
- ・「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して、肯定的な回答割合は、全国平均と比べ、小学校は低く、中学校は高い。昨年度と比べると、小学校、中学校ともに微減。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校、中学校ともに全国平均より高い。昨年度と比べると小学校、中学校ともに微減。

👉「朝食の摂取」及び「同じくらいの時刻に寝ていますか。起きていますか。」のクロス集計をみると、「している」と回答した児童生徒と、「全くしていない」と回答した児童生徒との各教科の平均正答率を比較すると、小中学校とも大きな差が見られます。児童生徒の健やかな成長のためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。こうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところです。学校と家庭がこれまで以上に連携を強化し、生活習慣の確立や生活リズムの向上を学習意欲の向上につなげる必要があります。

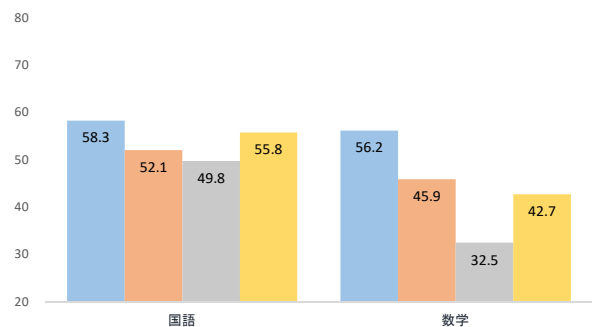
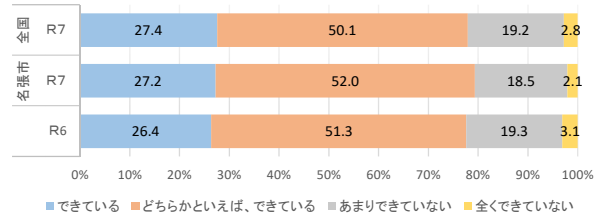
(3) 学習習慣等に関すること

①分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

小学校

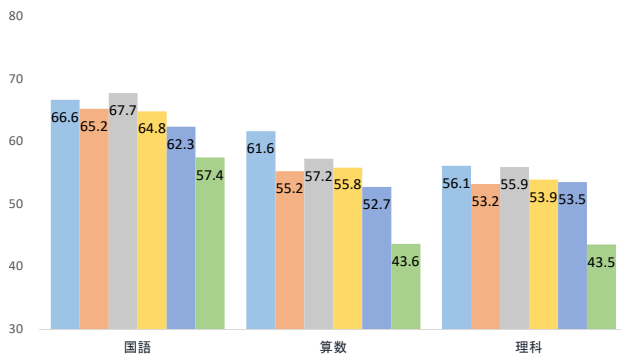
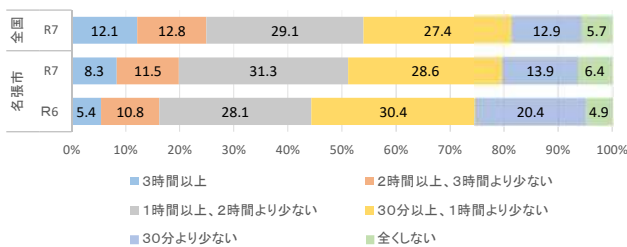


中学校

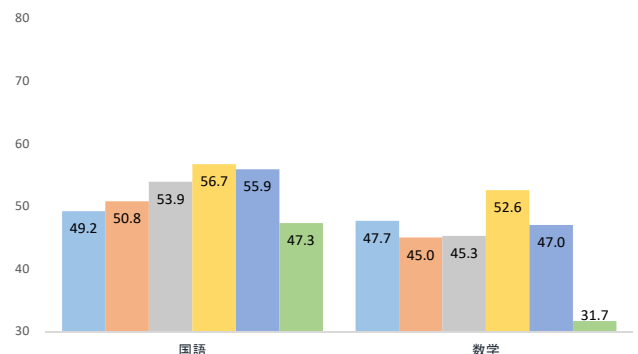
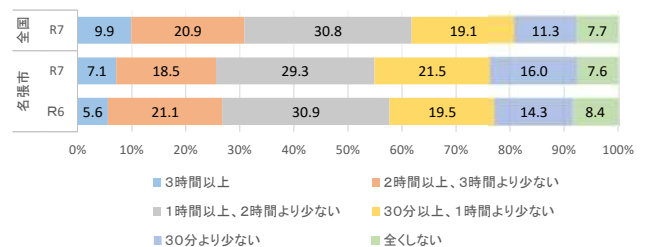


②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学校

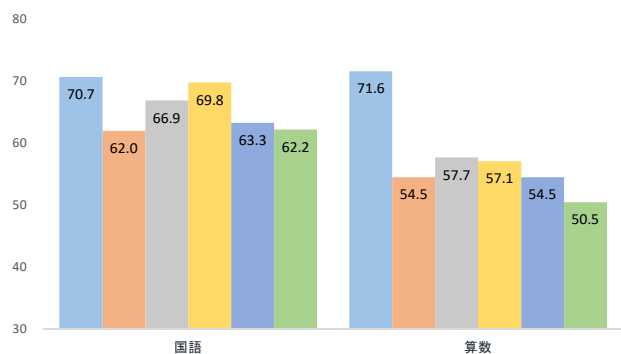
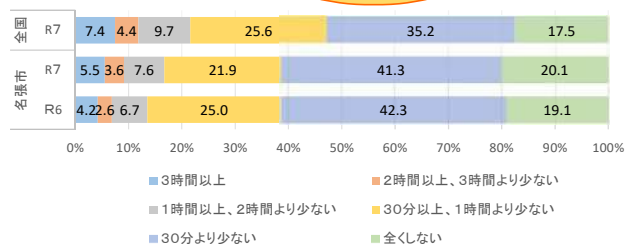


中学校

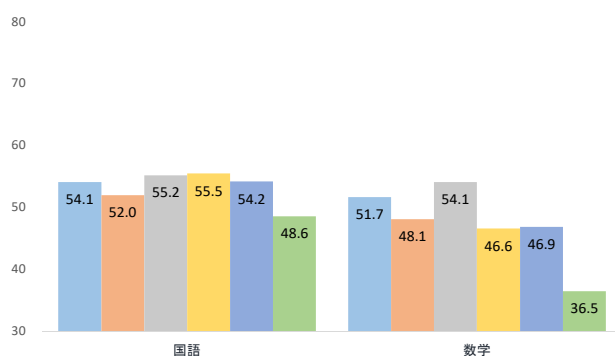
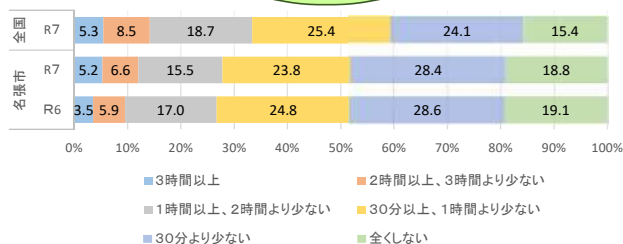


③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校

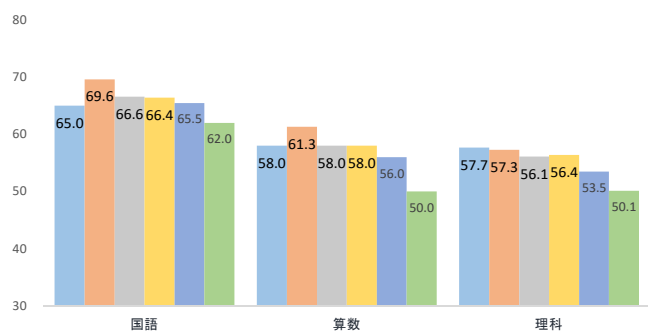
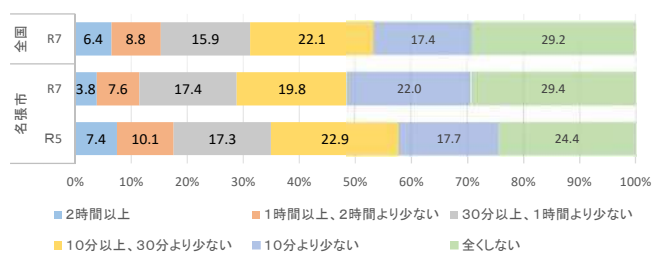


中学校

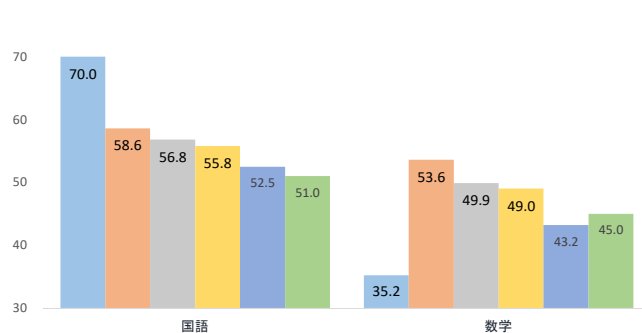
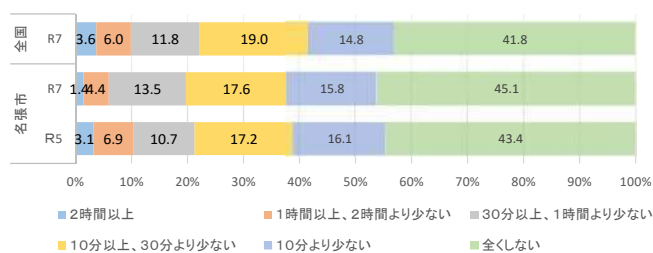


④学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの読書をしますか

小学校



中学校



【学習習慣等について特徴的なこと】

- ・ 平日の家庭学習の時間について、「1時間以上」学習をする割合は、小・中学校では全国平均より低い。
- ・ 平日の読書時間について、「30分以上」読書をする割合は、小・中学校では全国平均より低い。

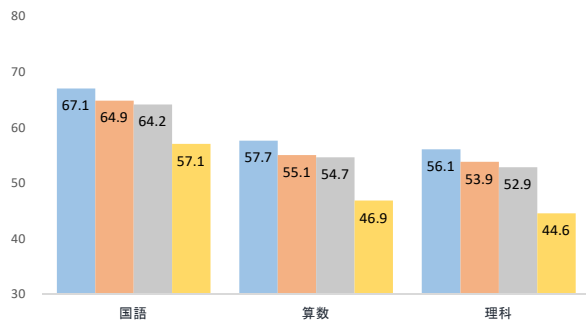
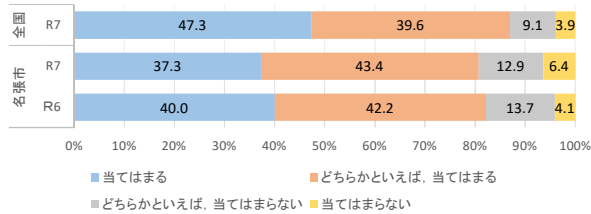
本市の児童生徒の家庭における学習時間が、平日や休日とも全国平均に比べて短いという結果がみられます。小学校では家庭学習の時間が増加し、三重県平均に比べて1時間以上学習している児童の割合が高くなりました。

学習習慣等の定着を図るため、家庭学習の出し方の工夫や、重要性についての啓発等、中学校区として、小中学校で共通した取組も展開されています(例えば中学校の定期テストにあわせて、児童生徒が有効的な時間の使い方について考え、行動化する取組等)。学校と家庭が協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

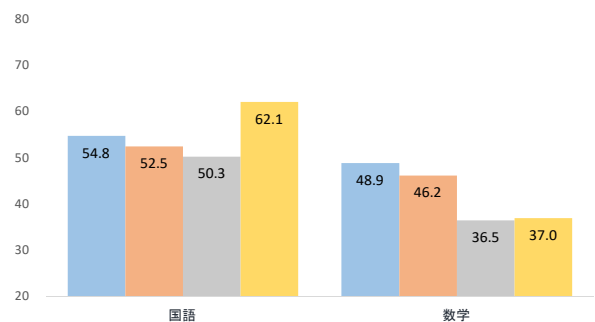
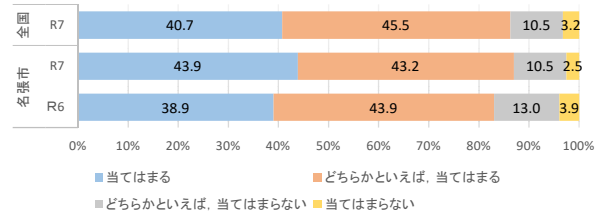
(4) 自尊感情・キャリア・地域貢献・社会貢献に関すること

①自分には、よいところがあると思いますか

小学校

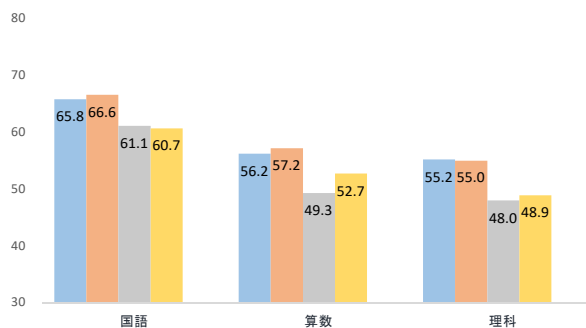
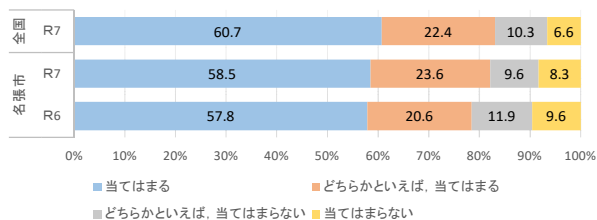


中学校

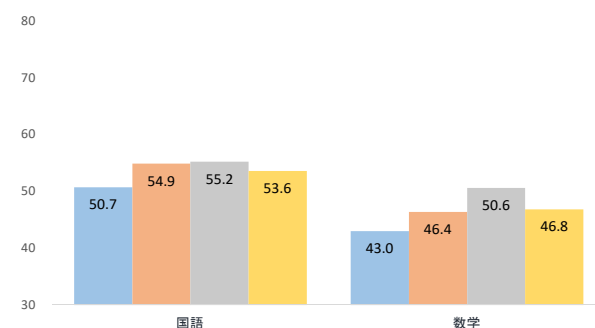
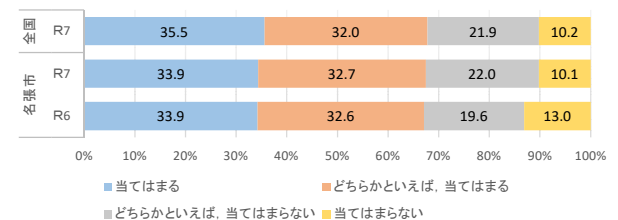


②将来の夢や目標を持っていますか

小学校

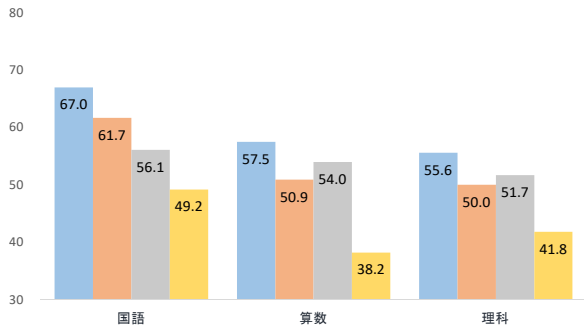
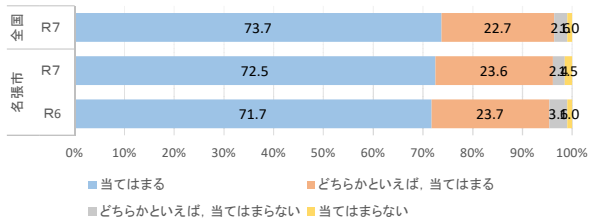


中学校

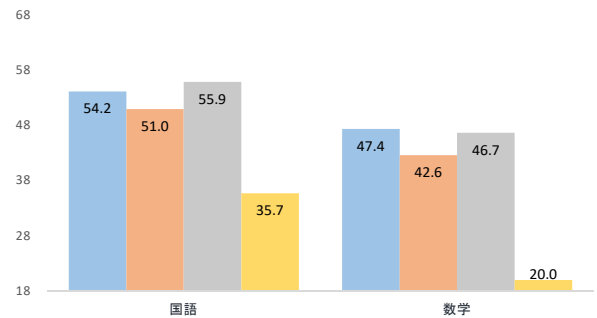
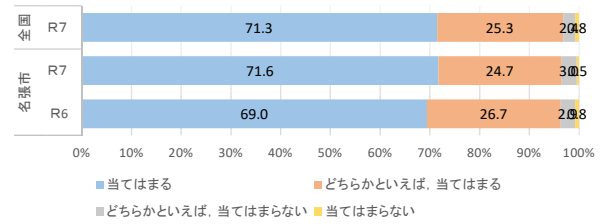


③人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校

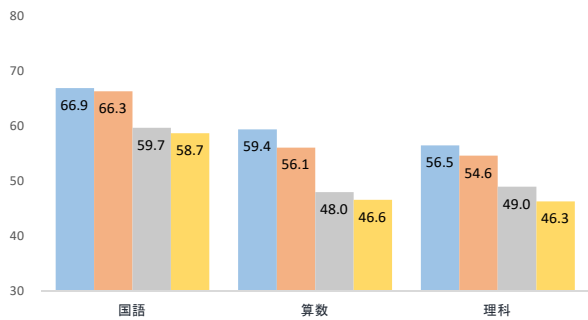
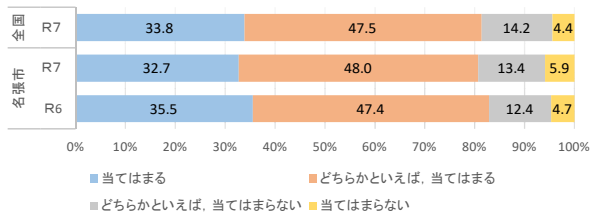


中学校

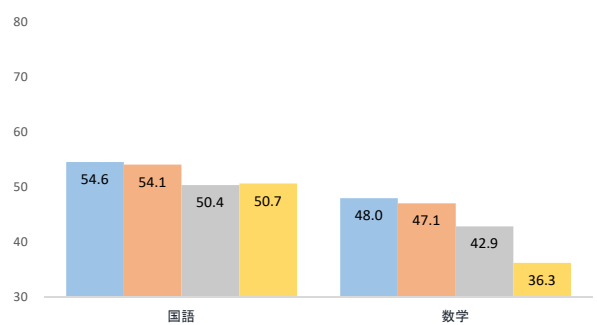
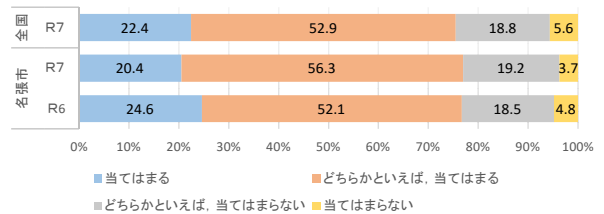


④地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

小学校



中学校



【自尊感情・キャリア・地域貢献・社会貢献に関すること】

- ・「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校で80.7パーセント、中学校で87.1パーセントで、昨年度と比べると小学校は減少、中学校は増加している。
- ・「将来の夢や目標をもっていますか。」という質問に対する肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、全国と比べ、小学校、中学校ともに下回ったが、昨年度と比べると小学校、中学校ともに増加している。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校で96.1パーセント、中学校で96.3パーセントと高い数値である。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」という質問に対する肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、全国と比べ、小学校がわずかに下回ったが、中学校は上回った。

自尊感情・キャリア・地域貢献・社会貢献に関する項目も正答率との関連があると捉えることができます。安心できる人間関係、学級づくりと同様に、教科の授業以外でも意識して教師と児童生徒、児童生徒同士、家庭、地域と関連性と一貫性をもった指導をしていくことが重要であると考えています。

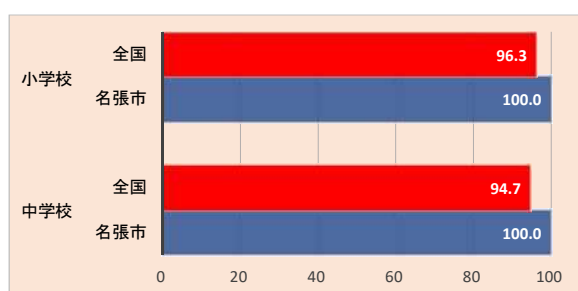
4 学校質問調査結果の特徴的な傾向と分析

「学校質問調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。

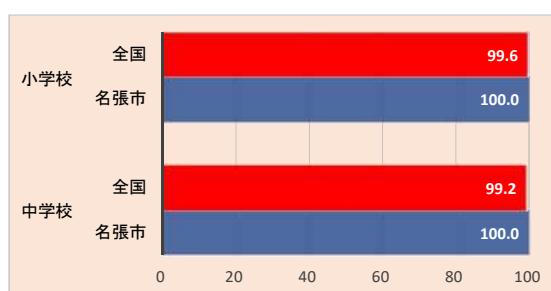
ここでは、「学校質問調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（％）

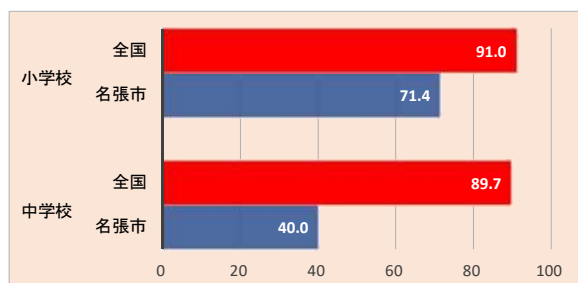
①言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



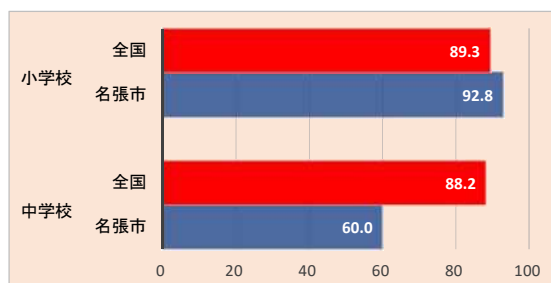
②学級運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフ含む）の専門性活かせるよう適切な役割分担や連携協働を行っていますか



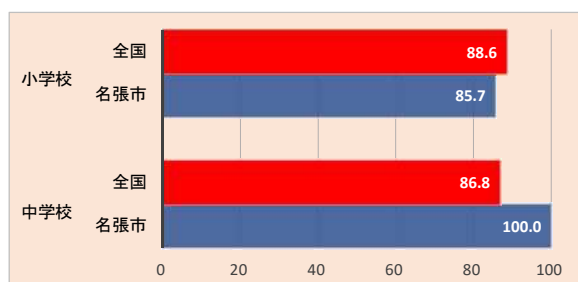
③今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか



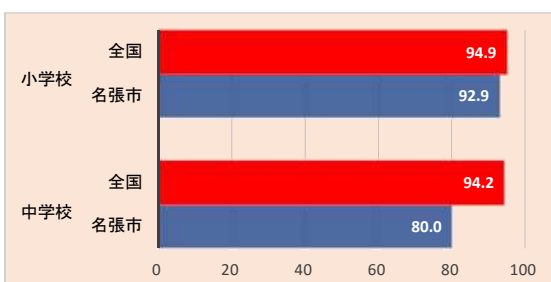
④調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



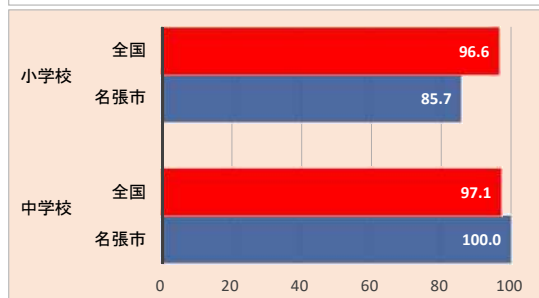
⑤調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



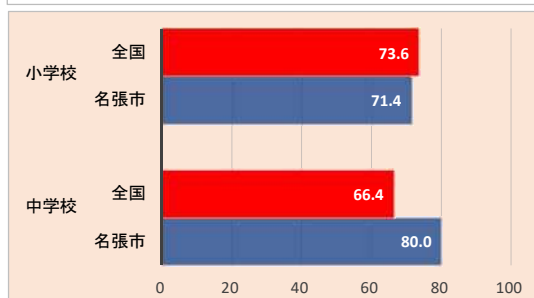
⑥学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている。



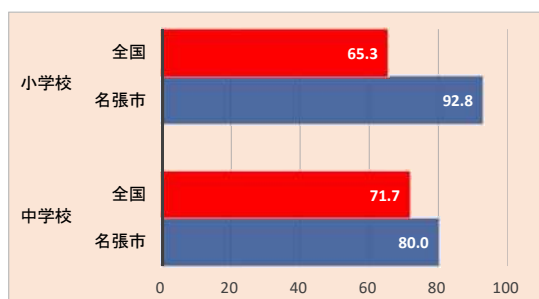
⑦調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童〔生徒〕自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



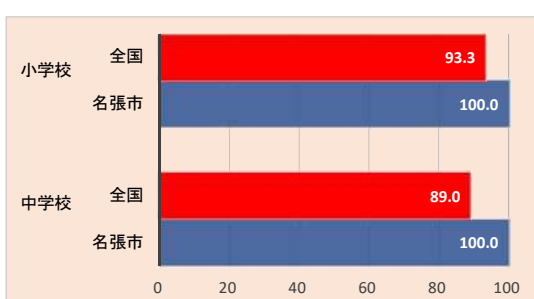
⑧調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか(週1回以上)



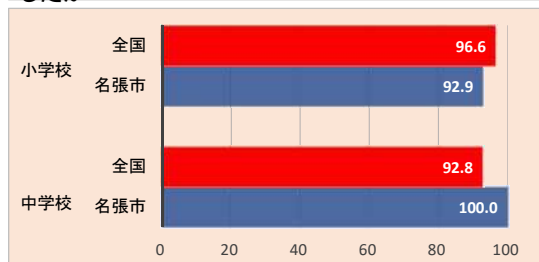
⑨前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか



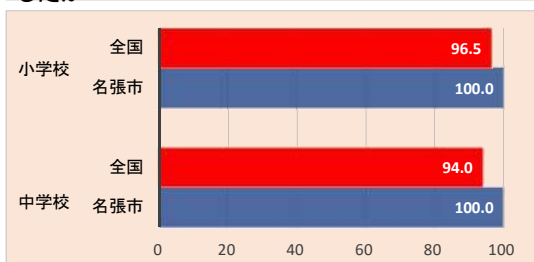
⑩コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか



⑪調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか



⑫令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



【学校質問調査について特徴的なこと】

- ・言語活動については、国語科を要としつつ、各教科の特質に応じて、学校全体として取組が行われている。
- ・これまでの取組をそのまま踏襲し、新しい取組や提案をする教職員が少ない傾向が見られ、全国を下回っている。
- ・調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますかという質問に対しての中学校の肯定的回答の割合が低い。
- ・すべての中学校区において小中一貫教育が実施されていることもあり、近隣の小学校（中学校）と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、共通した取組については、全国より進んでいる。
- ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まっている。
- ・家庭学習の働きかけについては、「学習の手引」や自主学習のモデルを示すなど、様々な工夫を行っているが、小中学校とも100パーセントには至っていない。実際の家庭学習の時間は、小中学校とも全国を下回っている。実効性のある取組となるよう、引き続き、分析・検証し、改善を図る必要がある。

5 成果と、課題と今後の取組について

名張市教育委員会では、令和3年度から「第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画（令和3年3月策定）に基づき、「夢をはぐくみ 心豊かで 元気な 『ばりっ子』」をめざす子ども像に、さまざまな取組を進めているところです。

子どもたちの確かな学力の育成をめざし、子どもの心理的・身体的な発達段階に応じたきめ細やかな指導・支援を行うことにより、基礎的・基本的な「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育む取組を行っています。

全国学力・学習状況調査（以下、全国学調）は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことを目的としています。

本教育委員会や各学校では、本調査結果から子どもたちの学力や学習状況を把握・分析、検証し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に取り組み、子どもたちにとってわかる授業づくりを進めることにより、子どもたちの学習意欲と学力の向上をめざすとともに、子どもたちの生きる力を育て、中学卒業時には十分な学力を培うことをめざしています。これまでの本市の小中学校の取組の結果、本年度の調査で以下のような成果が現われています。

○ 国語において、小学校、中学校ともに文脈に即した漢字を正しく使うことができるというような「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域について強みがみられました。

算数において、「データの活用」の領域の示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題に強みがみられました。

数学において、一次関数を考え方を利用するような関数の領域で強みがみられました。

理科において、小学校は「粒子」の領域、水の蒸発について温度によって水の状態が変化するという知識を基に概念的に理解しているかを見る問題に強みがみられました。中学校は「エネルギー」の領域に強みがみられました。

○児童生徒質問調査において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対しての肯定的な回答は小学校、中学校ともに8割を超えています。「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対しての肯定的な回答は小学校、中学校ともに9割を超えています。今後も主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組んでいきます。

しかし、同時に以下のような課題もあります。

○国語において、目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書くことのような「書くこと」の領域について正答率が低く課題がみられます。

○算数・数学において、図形の性質を捉えて答える問題や、条件を変えた場合の証明を評価・改善する問題などの「図形」の領域について正答率が低く課題がみられます。

○理科において、植物のつくりに関する知識や条件を制御した実験の解決方法を見いだす問題などの「生命」の領域について正答率が低く課題がみられます。

○児童生徒質問調査において、学校の授業以外の学習時間が少ない傾向が続いています。小学校では平日の学習時間が増え、三重県の平均を超えましたが、学習習慣の確立に向けて家庭への啓発や家庭学習の出し方の工夫、時間の使い方について考える機会の確保をしていきます。また、小学校では「自分にはよいところがあるか」の質問に対して、当てはまると答えた割合が全校平均より約10%低くなっています。

授業場面だけでなく、あらゆる活動の中で自他の取組や成長をお互いに見つけ、認めることができる機会の確保をしていきます。

このような課題克服のため、「第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画」の方針に基づき、さらなる学力の向上に向けた以下の取組を進めます。

＜学習指導要領を踏まえた授業改善＞

学習指導要領を踏まえ、習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡ししながら、子どもたちの資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図っていく必要があります。

全国学調の調査問題は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討され、作成されています。結果を分析することで、今求められている力がどれだけ定着し、また、どのような課題があるかがみえてきます。すべての教員による指導方法の改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上につながる授業改善につなげていくことが重要です。

中学校においては、毎年、教科ごとの悉皆研修として、「学力向上教科研修会」を実施しています。今年度については小学校対象でも実施し、授業力の向上につなげています。

また、市教育委員会の指導主事が学校を訪問し、学校での研修への参加、学力向上に向けた各学校の今後の取組の聞き取りや視点を持った授業参観等を実施し、具体的な指導・助言をするなどの学校支援を行います。

さらに、県教育委員会とも連携を図りながら、指導主事を招聘した研修や授業参観を行うなど、学習指導要領を踏まえた授業改善を進めていきます。

加えて、作成したポンチ絵の3つの取組

- ①自己肯定感を涵養し、主体的な学びにつながる取組
- ②主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組
- ③家庭学習の取組について

を中心に据えて、同じ方向をめざしながら、各校での改善を進めていきます。

＜小中一貫教育の推進＞

全国学調の学校質問調査での、「近隣等の学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問項目について、「よく行った」「どちらかといえば、行った」の回答が小中学校とも全国平均よりも高い割合となりました。今後もさらに、中学校区のすべての教職員が9年間の学習等について具体的なイメージをもち、当該学年における指導の充実や指導方法の改善を図るとともに、校種の枠を越えた指導・教育を行うことにより、子どもたちの学びと育ちを保障し、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育てていきます。同時に、自己有用感や人間関係を形成する力等の育成についても、キャリア教育等をはじめ、学校の教育活動全体を通じて育てるとともに、9年間の子どもの育ちと学びの系統性・連続性のある指導を一層進めていきます。

＜コミュニティ・スクールの推進・充実＞

各学校の学校運営協議会では、児童生徒や教職員と懇談をする機会を設けるなどの工夫がみられます。全国学調の学校質問調査において、「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか」の質問項目への肯定的な回答が小中学校とも全国平均よりも高い割合となっており、充実に向けた取組が進められています。

一方で、同調査では、家庭学習の定着、読書の習慣化をはじめ、生活習慣や地域貢献、自己有用感等に課題がみられます。課題の改善に向けて、学校と家庭が課題を共有する中で、学校とPTAや学校運営協議会等の学校関係組織が意図を持って、具体的な行動プランを進めていけるよう、一層の連携・協働に努めていきます。